

愛知医科大学 学報



建設工事が進むドクターヘリ格納庫

(完成イメージ)

＝ 第149号 ＝

2018. 1月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

年頭ごあいさつ	2
ホームページのリニューアル	10
長久手高校と高大連携協定を締結	10
教授就任インタビュー	16
平成30年度入学試験開始	18
平成30年度学年暦	20
ウッチ医科大学留学体験記	24
保健管理センターコラム	29
Smile ～スマイル～	38



—新年のごあいさつ—

理事長 三宅 養三

新年明けましておめでとうございます。

私が大学を卒業して、医師として大学で仕事を始めてから今年で50年が過ぎました。日本の医学・医療が急速に発展した時代も少し低迷してきた時代も経験しましたが、今ほど医科系大学の前途が混迷している時代はなかったと思います。国は医科系大学に対して健全な経営を求め一方で、働き方改革を提案してきました。この両者は相反する要素を含んでおり、どちらもうまく行うことは容易ではないと思えます。更に医療安全や医療倫理の強化、地域包括ケアシステムの構築、初期臨床研修や専門医制度の改革、医学教育分野別評価（国際認証）で示される国際基準を踏まえた医学教育改革、更には医学英語論文数による研究評価等々で機能の悪い大学は生き残れない時代がすぐそこまで来ております。超高齢社会を迎え、日本の医学・医療体制が抜本的な改革を余儀なくされることは致し方ない現実と受け止めるべきであると思いますが、考えようによっては、これはチャンスなのかもしれません。

愛知医科大学は今年で建学46年を迎え、50年という区切りの時期もすぐに迫っております。平成18年から開始された新病院建設を本丸とするキャンパス再整備も職員一同の大変なご努力の末、今年度でほぼ全てが終了します。それにより愛知医科大学という舞台は整い、これからは更に良い役者（人材）を集め、今こそ足元を固め、混迷の時代に対して積極果敢に立ち向かっていきたいと思います。

まずは「経営」です。経営の充実が大学として最も大切な研究、教育には欠かせないことは論を俟ちません。昨年ようやく新病院効果が出始めた年となり、今年度は患者数、手術数、病床稼働率等の病院経営の鍵となる要素に確実な進展が見られています。患者数、特に外来患者数の増加は目を見張るものがあり、一日の患者数が2,600人を超える日が多く、この数は日本でも有数との報告がありました。8年前に比べ手術件数は約1.4倍の増加が見られ、更に2万点以上の手術件数も約2.2倍増加いたしました。

愛知医科大学が今後、「臨床研究」を推進するにはどのような方向があるでしょうか。大学という組織を継続させるためには、臨床医といえども職員全てがリサーチマインドを持って仕事をしなくてはなりません。言い方を変えればリサーチマインドがない場合には、大学という組織に所属する意味が無いのです。リサーチマインドにより大学での臨床を深く洞察し、その結果として、学術論文や科学研究費助成事業に対して積極的に挑み、採択された時の興奮が忘れられなくなる、これが大学人の基本なのです。

実は、「教育」が大学にとって最も大切なのです。偏差値や国家試験合格率を上げることは、大学の社会的評価を鑑みても非常に大事なことです。しかし、更に重要なことは、愛知医科大学を卒業した優秀な学生が、どれだけ卒業母校に残るか、あるいは母校に戻ってくるかであり、これがその大学の教育力として最も評価される規準であると思います。学生は、大学生活中に母校を色々な角度から眺めており、卒業後の進路を決めるのです。学生は何を見ているのでしょうか。大学の建物や備えられた先端医療装置でしょうか。それなら、愛知医科大学は十分に魅力的な大学となりました。しかし、そんなことではないのです。実は、「魅力のある教官がいるかどうか」を冷静に見ているのです。私は50年の大学人としての経験から、医療人として大成した人の共通点は、「魅力あるヒトに憧れて若き日に自分の進路を選んでいること」が多いことを知りました。これが正しいとすると話は非常に単純です。本学出身の優秀な学生を卒業母校の大学人として活躍させるには、本学に魅力ある教官がどれだけいるかにかかってくるのです。本学卒業の優秀な人材が母校に残り、頑張るようになれば、大学にとってこれ以上ない大きな発展の促進力となります。

勝手なことばかり述べましたが、私は間違っていないことに自信があります。このような心を込めて、この度、「学是」を制定しました。今年の本学にとって一大飛躍の年となることを祈っております。

具眼考究

ぐがんこうきゅう

愛知医科大学が創設された際に定められた「建学の精神」では、「よき臨床医を育てる」、「大学が地域社会に奉仕する」、「発展途上国の医療の進歩、向上に協力する」の3項目を挙げ、患者からも地域からも、国際社会からも頼りにされる医師の養成を理想とされました。「建学の精神」は不変であるものの、建学から既に50年近くが経過し、新病院建設を始めとするキャンパス再整備等が進み大学を取り巻く環境も大きく変動しています。

医療においては、超高齢社会や人口減少に伴い、日本の医療そのものが大きく様変わりをしていること、教育においては、医学教育分野別評価（国際認証）の受審が決定し、グローバル化の流れを受けた医科系大学の教育が大きな転換期を迎えたこと等から、職員・学生にとって、新しい時代に即した「建学の精神」の実現・実践に向けて、心の拠り処となる「学是（基本理念）」が必要となりました。そのため、全学的な議論を踏まえ、平成29年3月の理事会・評議員会に提議され、更に同窓会等関係方面への説明を経て、平成29年5月の理事会・評議員会で新たに学是が制定されました。

この度、学是として制定されたのは「具眼考究（ぐがんこうきゅう）」という言葉です。あまり聞きなれない言葉と感じられる方が多いと思いますので、その意味と心を説明いたします。

「具眼」とは、江戸中期の天才絵師で近年脚光を浴びている伊藤若冲の言葉として知られており、坪内逍遙や夏目漱石等の明治の文人も好んで使用した言葉です。「確かな眼」、「見通す眼」、「眼力」、「慧眼」といった意味であり、医学的には「正しくみる」ことを表します。「みる」とは「診る」、「看る」、「見る」、「観る」、「視る」の全てを含みます。「考究」とは、「具眼」によって得た神髄を深く考え、それに対して正しく対処して究めることを指します。

まず「臨床」では、個々の患者を「具眼」でみて、患者が最も幸せになれる状態を考え、そのように対処するのが「具眼考究」です。個々の患者の正確な病態とともに患者の価値観やその生物学的、心理学的、経済的、社会的な全ての視点に立って包括的、全人的に患者を把握しようとする医療人としての感性を指します。これは超高齢化に伴い、医学と医療とが乖離してきた現代には特に必要となり、実際に診療の場で医学と医療の違いを実感することが多くなりました。つまり、多くの疾患の対

処には現状の医学では不完全な部分があり、個々の患者の様々な背景を配慮しながら治療することこそが医療の神髄であり、そのための「具眼」を育むことが今ほど必要な時はありません。

医科系大学においては、臨床とともに研究と教育が重要です。研究にも「具眼」は極めて大切です。新知見を鋭い感性で見出すことを「Serendipity」と呼ばれることもあり、まさに研究の醍醐味ですが、これには「具眼」が必要です。研究における「具眼」は天才にだけ与えられるのではなく、大変な努力と勉学に感性が加わって初めて育まれるものです。「具眼」により見出した新知見をどのように利用するかを考え、最終的に大きな研究成果として究めるのが「具眼考究」です。また、教育においては「具眼」により個々の人材の能力を見出し、その多様性を活かし、「建学の精神」に掲げられた患者からも、地域からも、国際社会からも頼りにされるよき医療人に育てるのが「具眼考究」です。大学の先を見た正しい方向付け、いわゆる将来のVisionにも「具眼」が必要です。健全な大学経営がなくては、臨床・研究・教育の全てが上手くいきません。例を挙げますと、この度の新病院建設も「具眼考究」と呼ぶことができます。先が全く見えない混乱の時代に最高のタイミングで新病院建設を開始したのは「具眼」のなせる業で、そのための対策として組織の構造改革、新病院建設費用の最良の資金繰り、リーマンショックの善処等が功を奏し、問題なく新病院建設を成し得た一連の成果は「具眼考究」により達成されたと思います。

「具眼考究」は未踏の言葉ですが、このように味わい深い多くの意味を持っております。「具眼考究」を愛知医科大学の学是としたことにより、この言葉の意味を正しく理解して、国民的にも広く深く周知されていくことを願っております。



— 「先駆者」と評価される 大学・病院を目指して —

学長 佐藤 啓二

新年おめでとうございます。今年も皆さまにとって明るい希望に満ちた年になりますようお願いしております。

社会情勢に伴う変化

2015年から2034年までの20年間に総人口は1,400万人減少し、2034年における大学入学者数は15万6千人減少すると試算されています。一方、2007年に7,600名であった医学部入学定員は、2017年に9,420名にまで増加しており、人口10万人当たりの医師数の目安をOECD加盟国平均相当とすれば、入学定員数の削減は2020年以降不可避となり、2030年以降は半数でも良いとする試算も出されています。

2025年に必要な病床数を試算した地域医療構想において、必要な高度急性期・急性期病床数は現在の70%とされており、若手医師が初期研修から専門医資格取得までの間、大・中病院で勤務できる環境が崩れていく可能性もあります。

教育

医学教育分野別認証の審査が2年後に迫っており、準備を加速する必要があります。双方向教育の実践、生涯学習能力や情報活用能力の獲得が重要と指摘されており、ICT利用教育の推進を図る必要があります。昨年度予算にて、講義室のWi-Fi環境整備とe-Portfolioの開発導入を進めており、Aidle-Kの利用とともに動画や各種画像による試験対策等、広範に活用し効率の良い教育に結び付けることが必要です。

75歳以上の高齢者人口が激増し、在宅（家庭）医療の必要性が高まることも必然です。医師過剰時代に備え、愛知医科大学が地域における不可欠な存在として認知・評価されるためにも、在宅（家庭）医療の実践的教育を推進する必要があります。

研究

科研費申請件数（継続を除く。）については、平成27年

1月からJump up作戦の準備を始め、平成27年4月から申請補助を開始した結果、平成28年度に向けた申請が128件であったものが、平成29年度は182件、平成30年度は227件と177%まで増加しました。基礎と臨床がコラボしながら若手研究者を育成することを目途とし、2017年度から始めた研究ユニット創出支援事業においては、既に成果発表会が開催される等順調に推移しています。研究創出支援センターについては、支援活動の内容が徐々に理解され利用者も増加しています。

診療

平成29年度上半期の診療成績は、外来患者数2,594名／日、平均在院日数10.8日、病床稼働率91%、手術件数1,032件／月、入院単価70,358円となっており、全ての数値が新病院稼働後に著しく改善し続けています。一方、我が国全体では、2015年の就業1時間当たりの労働生産性はOECD加盟35カ国中20位で、北欧諸国やドイツ・フランス等は労働時間が1,300～1,500時間程度と日本より10～20%短いにも関わらず、時間当たりの労働生産性は日本を上回るとの結果が示されています。医療においても、時間当り労働生産性を考えることは重要です。2017年10月時点で、本学の医師事務作業補助体制加算は75：1となっていますが、私立医科大学の半数は50：1以上となっています。医師業務負担軽減策を進めて、医師の労働生産性を上げることを考えていきたいと思っております。

また、職員の皆さんの努力で、採血・採尿センターの待ち時間や投薬待ち時間が10分程度まで短縮されています。これに加えて、診察待ち時間の短縮も実現できれば、多くの患者さんにとって有効生活時間が増えることになり、時間当り労働生産性が増していくことにつながります。

我々が「あるべき大学・病院の理想形」を示し続けていきたいと思います。日本のリーダーとして認められる時代が近づいています。



— 愛知医科大学医学部の 更なる発展を祈って —

医学部長 岡田 尚志郎

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈り申し上げます。

初めに、皆さま方には、昨年も愛知医科大学医学部の教育・研究上の様々な改革についてご理解を頂き、ともに進歩できましたことを改めまして心からお礼申し上げます。いよいよ18歳人口の減少が始まる2018年を迎えて、なお一層の改革を進めていくことができますようご協力をよろしくお願いいたします。

さて、我が国はグローバル化や超少子高齢化、更には人工知能の発達などによる社会の急激な変化によって、将来の予想が難しい時代に突入しています。中でも人口の減少は著しく、50年後には総人口が3割減少すると予想され、18歳人口も現在の約120万人から、2060年には5割にまで減少すると見込まれています。このような状況下では、定員割れによる大学の淘汰も時間の問題となってきました。更に聖域と考えられていた医学部でさえ、2033年頃には全国の医師数が約32万人にのぼり、医師の需給が均衡し、その後は供給が需要を上回ると推計されています。大学を卒業して、キャリアを積んでいくといったこれまでのライフスタイルの根底が揺らぎかけているといっても過言ではない時代ですが、昨年文部科学省高等教育局は、「今後生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら、自分の人生を切り拓き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てていくことが必要である。」と提言しました。そして、このような有為な人材を育てるためには、大学教育の質の向上が欠かせないとして、様々な政策が打ち出されています。

2023年問題に端を発した医学教育分野別評価による医学教育改革も、このような時代背景と決して無縁ではありません。「医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）」では、真っ先に医師としての立ち居振る舞いといったプロフェッショナルリズムの基本が掲げられ、知識や技能だけではなく態度の重要性を説いています。更に昨年9月には、日本学術会議も「大学教育の分野別保証のための教育課程編成上の参照基準 医学分野」を報告するなど、人格的に優れた医師の育成のためには、教育内容に留まらず、大学そのものの質の向上が必須であり、真に中身のある改革が求められています。

本学は、平成31年度に医学教育分野別評価を受審することが決まりました。受審に必要な自己点検評価書を平成30年度に作成するために、臨床実習をこれまでの48週から72週に増やすことを柱とした新しいカリキュラムを昨年4月から開始しました。また、臨床実習をクリニカルクラークシップ1及び2に分け、学内のみならず学外研修病院においても、きちんと評価のできる臨床実習を行っています。一方、座学中心の講義を改め、アクティブ・ラーニングを導入し、学生が自ら学ぶ姿勢を身に付けることができるような工夫を試みているところです。そのために教員も、高知大学医学部の瀬尾宏美教授による「TBLチーム基盤型学習」、愛媛大学教育・学生支援機構の小林直人教授による「大人数講義でのアクティブ・ラーニング」及び佐賀大学医学部地域医療科学教育研究センターの小田康友教授による「症例基盤型講義（CBL）」を中心としたアクティブ・ラーニング」をFD（ファカルティディベロップメント）で受講し、知識を深めています。

ところで、文部科学省の言うところの質の向上には「成績判定の厳格化」も挙げられています。いくら立派なカリキュラムを策定しても、進級判定が甘ければ教育の成果が歪められてしまいます。入学試験の難関を突破してきた学生が、愛知医科大学で学んでよかったと思えるように、厳しくも充実した学生生活を送れるような環境の整備も必要でしょう。来年度以降進級要件、進級判定についても見直しが図られる予定になっています。

改革とは既得権の破壊に他なりません。皆に都合の良い改革などあるはずもなく、ただ一つ愛知医科大学の医学教育の質を高めることによってのみ、本学はグローバル化の荒波を乗り越えていくことができるのではないのでしょうか。

愛知医科大学医学部のミッションは、「人間の命を大切にし、人の痛みを除き、苦しみを和らげることに無条件に奉仕できる医師」を患者、国民ために養成することです。今後の我が国の医学・医療を担う学生諸君が、「自分で考え、自分で決断し、自分の責任において行動できる」自立した人間に成長してくれることを願っています。『チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしないことを恐れる』（本田宗一郎）



— 2018年

愛知医科大学病院の課題一

病院長 羽生田 正行

明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。いよいよ2018年が始まりました。愛知医科大学病院を取り巻く状況を考えますと、本院にとって4月からの新年度は極めて大きな意味を持つ一年になりそうです。年始に当たりまして、自分自身の考え方を整理する目的も兼ねて、来年度の問題点や課題をいくつか挙げてみたいと思います。

まずは、「診療報酬改定」についてです。来年度の診療報酬・介護報酬のダブル改定は、医科・歯科がわずかなプラスとなりましたが、薬価、材料価格のマイナスを含めると実質マイナス改定となりました。院内処方を行っている本院としては、薬価の変動や後発医薬品の数量シェア80%目標や、残薬対策・剤数制限などの薬剤使用量の総量規制などが心配される場所です。また、2019年に予定されている消費増税への対応も急がれます。消費税分は診療報酬に上乘せされているとはいうものの、大規模投資が必要な高度急性期病床を多く持つ大学病院は機器等への投資額が大きく、消費増税の影響が大きいのかかってきます。診療報酬上の手当てが、一部の診療所では益税になっていることも問題点です。消費税が10%に上がった時点で、どの程度このような問題が改善されるか注視していますが、大きく改善される見込みは少ないのではないかと考えています。大学病院としては生き残りをかけ、投資の前倒しや更なる効率運営に注力し、この問題を乗り切る必要性を痛感しています。

二つ目は、「医師の働き方改革」の行方です。この原稿を書いている時点でも、特定機能病院を含むいくつかの病院が、既に労働基準監督署から労働環境の改善勧告を受けています。本院としては、可能な限り時間外手当を支給し、また、当直明けの勤務免除を行うなどの対応をしていますが、診療と教育・研究の境界があいまいな点も多々あり、早急に整理する必要があります。加えて、医師に関しては、出退勤時間の把握が十分にできていないなど勤務管理体制の見直しが必要であり、こちらも法

人とともに改善を急いでいます。2019年3月までにまとめられる「医師の働き方改革に関する検討会」の提言を受け、本院としても更なる改善が求められると考えていますが、この提言が今後訪れる医師過剰時代に医師給与の引き下げと労働環境の改善をセットで行う、つまり総賃金を抑えて多くの医師が働くという構図は将来の医療崩壊につながることから、そうならないように声を上げていかなければならないとも考えています。

三つ目は「地域医療構想と大学病院の在り方」の問題です。これまで大学病院は、二次医療圏を越えて特色ある高度急性期医療を担ってきましたが、昨今国や県が推し進める地域包括ケアシステム、地域医療構想の中で、自病院をどのような位置づけにするのかによっては、その病院の将来が大きく左右されるため、各病院は慎重な対応が求められています。各大学病院も置かれた状況により異なりますが、愛知医科大学病院は、今までどおり二次医療圏以外からも多くの患者を集めて行く一方で、地域医療構想の下、地域医療に色濃く関与していかなければならない大学病院であると考えています。もともと地域との関係が深く、広域はもちろん地域の救急医療を支える役目を担ってきた病院であり、その延長線上に新しい地域包括ケアシステムが構築できないかと模索しています。ただ、今までのように三角形の頂点に高度急性期病院を置くシステムではなく、平面上で高度急性期病院を含め全ての病院、診療所、介護施設等をフラットに繋ぐ形のシステムを構築し、それを医師だけでなく看護師、その他のメディカルスタッフとともに医療ネットで覆う仕組みづくりを急がねばならないと考えています。

その他にも、始まったばかりの新専門医制度の行方なども気になる所です。このように課題山積の2018年ですが、働く職員にも地域の方々にも、そして本院に関係される全ての方々にも誇りに思ってもらえる病院づくりを心掛け、この一年も邁進する所存です。

今年もご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



—時代の変化に応じた 新たな看護教育の構築—

看護学部長 白鳥 さつき

新しい年を迎えて、教職員並びに学生の皆さまに新年のごあいさつを申し上げます。

愛知医科大学看護学部は昨年、国家試験合格率100%を2年連続で達成し（2017年は保健師も100%）、幸先の良いスタートを切りました。しかし、18歳人口減少の2018年問題を控え、教職員が身を引き締めるべき課題が山積され、様々な方面に挑戦した1年間でした。昨年を振り返って、看護学部の活動の概要をお知らせいたします。

看護教育界の大きな変化、とりわけ看護系大学の激増（全国で255課程）は、愛知医科大学看護学部を厳しい環境に晒しています。競争に勝つため、学生募集では、教員と事務職員による高校訪問を昨年度から開始し、受験生の増加（昨年度の入学志願者数は587名）という実績を上げました。進路指導の先生と関係性を持つことや高校生の状況を知ることは、もはや欠かせない情報収集となりました。また、オープンキャンパスや一日体験入学も更に充実することができました。教職員の熱のこもった企画と運営で、オープンキャンパス参加者は2日間で合計946名と過去にない数となり、一日体験入学も好評につき年2回の開催で、参加者123名を数えました。この成果は、看護学部全体の凝集性が高まった証と捉えています。

新しいカリキュラムのスタートは、初年度で大きな混乱はありませんでしたが、学生の学びを保証できているか今後の評価が重要となります。また、昨年10月末には、文部科学省から看護学教育モデルとなるカリキュラム（モデル・コア・カリキュラム）が策定され、これに沿った内容の検討が必要となりました。これは、全看護系大学が共通して取り組むべき専門分野で修めるべきコアの内容を抽出し、モデルとして体系的に整理したもので

す。医学モデルに偏っているという批判もある中で、愛知医科大学の特色を生かしたカリキュラムを目指している段階です。カリキュラムの検討は、日本看護系大学協議会による専門分野別認証評価へと続く大切なステップとなるため、次年度に向けた重要な課題となります。

次に、看護学部の発展に繋がるイベントがありましたのでご紹介します。一つ目は、愛知医科大学と長久手高等学校との高大連携協定の締結です。高大連携では、長久手高校に平成30年度から開設予定の「医療・看護コース」の授業を看護学部教員が担当することになりました。大きな事業ですが、高校生に看護の魅力を伝え、主体的な職業選択を支援するという意味を持ちます。二つ目は、タイ王国マハサラカム大学との学術交流協定の締結です。看護学部ではアジア圏の大学との学術交流協定は初めてで、未知の世界への挑戦になります。海外から留学生を受け入れることも初めてのことで、学生は異文化交流によって貴重な体験ができ、広い視野が培われることと思います。

超高齢社会における保健・医療・福祉の新たなグランドデザイン「地域医療構想」において、人々が住み慣れた地域で豊かな療養生活を送るためには、統合的な高齢者ケアシステムの構築とシームレスな医療の提供が求められます。そこで最も活躍が期待されるのは、看護職であると確信しています。このような社会の期待に応えられる実践力のある看護師の育成と、様々な分野でリーダー的役割を担って活躍する修士修了生を送り出すことが愛知医科大学看護学部・大学院看護学研究科の使命であると考えております。

新しい時代に向けた組織作りと看護教育の構築のために、これからも皆さまのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

役員・評議員の異動

【副理事長】

就 任 祖父江 元（任期：平成30年1月1日～平成31年1月27日）

役員・名誉教授・教授懇親会開催

平成29年12月21日（木）午後6時30分から名古屋東急ホテルにおいて、役員・名誉教授・教授懇親会が開催されました。お忙しい中ご出席頂いた71名の諸先生方は、久しぶりにお顔を合わせられたこともあって話に花が咲き、とても和やかな懇親会となりました。

初めに三宅養三理事長からあいさつがあり、柳田昇二

理事の音頭で乾杯が行われ会が始まりました。懇親会では、今年新たに就任された教授、理事、名誉教授の先生やご参加頂いた各先生から近況報告や抱負などのあいさつがありました。

最後に佐藤啓二学長からあいさつがあり、会は盛会裡に終了しました。

平成30年新年祝賀式

平成30年1月4日（木）午後3時から大学本館たちばなホールにおいて、新年祝賀式が行われました。

祝賀式では、初めに三宅養三理事長から新病院棟が医療福祉建築賞や省エネ大賞を受賞した功績が紹介され、また、叙勲や表彰を受けた職員に対するお祝いの言葉が述べられるとともに、「キャンパス再整備もほぼ全てが終了し、立派な舞台が整いました。新病院効果や職員の皆さんの努力により、愛知医科大学は確実に進展していますが、まだまだ厳しい時代は続きます。ピンチをチャンスに変える力を愛知医科大学は持っていると思っておりますので、『具眼考究』という学是の下、皆さんにはこれからも元気に頑張ってください。」とあいさつがありました。

続いて、佐藤啓二学長からは“備え”があったからこそ可能となった重力波検出の話があり、「愛知医科大学は、平成31年度に日本医学教育評価機構による分野別評価、その翌年度には大学基準協会による大学評価の受審が控



あいさつする三宅理事長

えています。前回の大学評価で改善を勧告されている大学院の改革を始め、備えて対応すべきことはたくさんありますが、皆さんと力を合わせて頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお祈りします。」とあいさつがありました。

岸孝彦 元中央臨床検査部技師長

秋の叙勲の栄誉

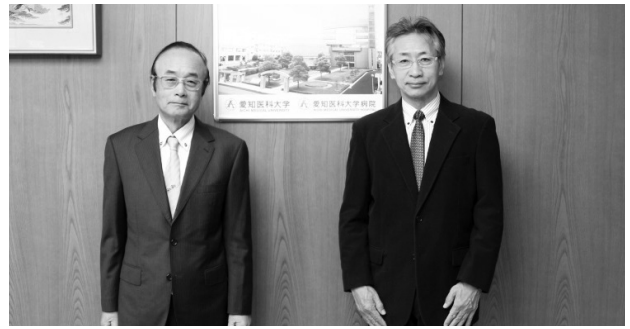
本院中央臨床検査部元技師長の岸孝彦さんが、平成29年秋の叙勲において、瑞宝双光章を授与され、平成29年11月10日（金）国立劇場大劇場において伝達式、皇居宮殿において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

岸元技師長は、昭和54年4月に中央臨床検査部の臨床検査技師として、愛知医科大学病院に入職されました。血液検査に一貫して従事され、検査の効率化・迅速化・省力化に取り組み、血液検査の機械化・自動化に取り組み、検査精度向上に努められました。

新病院建設プロジェクトでは、コンセプトの議論と並行して既存病院の業務改善を進め、検査部の運用体制を変更して朝の検体集中による検査結果遅延を解消するなど、診療サービスの改善を図られました。新病院の検査室は、採血・採尿の中央化や、災害時に備え検査機器の二重化体制を整えた他、検査技師の多職種チームへの参加促進、高度救命救急センター内への技師の配置等によりチーム医療体制も整えるなどリーダーシップを発揮され、病院機能評価においても最高のS評価を獲得されました。

学会活動においても、第50回中部医学検査学会で実行委員長を、第16回日本検査血液学会学術集会において、副大会長を務められる等、積極的に活動されました。また、公益社団法人愛知県臨床検査技師会では、理事、常務理事、副会長を歴任し、臨床検査技師の育成に尽力された他、愛知県臨床検査標準化協議会の委員としても活動し、地域の臨床検査の発展にも貢献されました。

岸さんは、今回の受章に関して「この受章はひとえに、中央臨床検査部のスタッフを始めとした愛知医科大学の皆さま方からの多年にわたるご支援の賜物と心より感謝



三宅理事長（左）と岸元技師長（右）



致しております。今後ともこの栄誉に恥じることはないよう、より一層精進していこうと思っています。」と述べられました。

平成29年度永年勤続者表彰

平成29年11月22日（水）大学本館たちばなホールにおいて、平成29年度永年勤続者表彰式が行われました。

当日は、三宅養三理事長から被表彰者へ表彰状が授与され、お祝いとお礼の言葉とともに本学の歴史を振り返り、「キャンパス再整備が始まってからこの10年、愛知医科大学は最高の経緯で前進しております。これは、皆さんのおかげであるとともに努力の賜物であったと思います。これからますます厳しい時代になりますが、これだけしっかりした新病院が建って、盤石の構えとなりました。どうか10年表彰の方は20年、30年、20年表彰の方は30年まで頑張ってください、またこの表彰式でお会いしたいと思います。」とあいさつがあり、被表彰者を代表して、形成外科の横尾和久教授から謝辞が述べられ、表彰式は終了しました。

永年勤続者表彰者は、次のとおりです。



謝辞を述べる横尾教授

30年勤続者（8名）

石黒 民子 大橋 浩三 岡 信充 木場久美子 戸田美佐子 三浦 理恵 横尾 和久

20年勤続者（24名）

青井 典隆 飯田 博己 泉 順子 市川美智子 伊藤 嘉宏 井上寿味子 大西 正文
大脇 佳奈 小関 弘智 春日井邦夫 加藤 栄史 小島 幸世 佐藤 啓二 諏訪真沙実
中松 啓明 服部なつ恵 平林 佳代 前川 雪絵 三村 郁 安永ちはる 矢野 宏典

10年勤続者（68名）

青木 仁美 青木 瑠里 泉 雄一郎 伊勢谷香苗 伊藤 友美 伊藤 良隆 井戸田麻由
井上 雅之 牛田 享宏 梅本 泰孝 江尻 将之 小澤 智美 加藤 隆寛 金谷なぎさ
北村 佳織 久野 和隆 久米 絵美 久留友紀子 高阪 絢子 佐藤 義明 篠原 康一
清水 希 杉浦 信夫 世古 有美 高木 真子 高島 浩明 高橋 知子 高橋みどり
塚本 真康 道勇 学 富田 美香 中路 隼人 中村信津子 二ノ宮宗憲 丹羽 淳一
丹羽 尚子 野田 貴幸 平野 恭子 深谷さおり 藤掛 寛子 藤谷 智之 古山 昂勢
堀田 和男 三浦 裕次 三嶋 廣繁 森 一直 森 康浩 森島 達観 安田 早織
山本 裕子 米田 政志 綿貫 博隆

（100名：五十音順・敬称略） ※氏名掲載は希望者のみ

ホームページを全面リニューアルしました

本学では、ステークホルダーに対して積極的な情報発信を行うとともに、使いやすいホームページの構築を目的として、約5年の周期でホームページを全面リニューアルしています。

この度、平成29年11月1日（水）に愛知医科大学公式ホームページが全面リニューアルされました。

スマートフォンやタブレット等のPC以外の端末からのアクセスが増加していることから、今回レスポンシブWebデザインを採用しました。

このレスポンシブWebデザインとは、PC・タブレット・スマートフォンなどの端末ごとに異なる画面サイズに応じてデザインを調整するシステムで、多くの企業や大学でも採用され始めています。



新しくなったホームページ
(左：PC版、右：スマートフォン版)

本学では今後も使いやすく分かりやすいホームページの運営に努め、コンテンツの充実を図ります。

高大連携

長久手高校と高大連携協定を締結

平成29年11月10日（金）午後2時から大学本館711特別講義室において、愛知県立長久手高等学校との高大連携に関する協定締結式が行われ、佐藤啓二学長と瀬治山みどり校長が協定書に署名しました。

長久手高校は本学から徒歩圏内に位置し、従来から看護学部の実地研修として高校生を受け入れたり、医学部教員による模擬授業や講演等を実施するなど交流を進めてきました。

今回の高大連携協定の締結は、長久手高校に平成30年度入学生から医療看護コースの募集が開始されることに伴い、大学と高校の連携を更に深め、教育・研究活動の活性化を目的としています。

具体的な連携内容としては、大学の授業に高校生を特別受講生として受け入れたり、看護学部教員による出張講義が定期的に開催される予定です。

佐藤啓二学長からは「この度の協定締結を大変嬉しく思っております。本学の理念である『地域医療への貢献』を達成するためには、地域との関わりが大切であり、長



協定書を披露する瀬治山校長（左）と佐藤学長（右）

久手市を始めとする連携を推進して参りました。今回の高大連携協定の締結においては、これからの医療を担う医療人の育成に貢献できると信じております。」とあいさつがありました。

神田真秋氏（愛知芸術文化センター総長）が本院を視察

平成29年12月6日（水）午後3時から、前愛知県知事であり、現在、愛知芸術文化センター総長を務める神田真秋氏が来学され、病院内に展示されている平松礼二ギャラリーを始めとした絵画を觀賞されるとともに、本院の施設を視察されました。【写真】

当日は、三宅養三理事長や佐藤啓二学長との会談後、島田孝一法人本部長の案内により、中央棟屋上ヘリポートからの眺望を楽しまれた後、14階特別病室を視察され、続いて、平松礼二ギャラリー、山内一生画伯、三輪光明画伯、木村光宏画伯の絵画を興味深く觀賞されました。

その後、本院が誇る患者案内システムNAVITを実際に操作しながら、再診受付機から診察室までの一連の流れを体験されました。

最後に、立石プラザに移動し、池を望む3階会議室において、2階のフードコートから取り寄せたコーヒーとケーキでくつろぎながら、ドクターヘリの帰還を見届けて頂き、視察を終了しました。



ハラスメント防止イベント開催

平成29年12月4日（月）から10日（日）の人権週間に因んで、ハラスメント防止に向けた啓発活動を実施しました。

平成29年12月5日（火）・6日（水）をイベント開催日とし、セクシュアルハラスメント及びパワーハラスメント関連のDVD放映を4部制にして実施し、視聴者からは「大変勉強になった。」との意見がありました。また、ハラスメントに関する相談を気軽にできる機会として、簡易相談窓口を設置し、相談者の対応を行いました。こ

の他、職員や学生の目につくパブリックスペースに、ハラスメント防止ポスターを掲示し、広くハラスメント防止の意識づけを行いました。

困った時は一人で悩まず、携帯用の『啓発カード』にある相談窓口の専用電話番号や専用メールアドレスを利用して相談するように心がけて頂きたいと思います。今後も「ハラスメントのない明るい職場作り」にご協力をお願いします。

平成30年長久手市消防出初式

平成30年1月14日（日）長久手市立西小学校において、晴天の下、平成30年長久手市消防出初式が執り行われました。長久手市消防は、来年度から尾三消防に統合されることもあり、長久手市単独での消防出初式としては今回が最後となることから、例年にも増して盛大なものとなりました。

第一部では、市内小学生で編成したキッズ消防団を先頭に行進から始まり、観閲・表彰・一斉放水が行われました。例年参加している入場行進については、今年が最後ということもあり、各事業所（愛知医科大学・アピタ・AEON・IKEA・豊田中央研究所）連合の自衛消防隊が編成されました。隊員11名からなる消防隊は、入場行進の最期を飾り、勇姿を披露することができました。本学からも2名の職員が参加し、隊長と旗手を務めました。

第二部では、市内の中学生による吹奏楽の演奏、展示を始め、消防防災体験等のイベントが各ブースで行われ、観客の皆さんからも笑顔がこぼれ盛況のうちに閉式となりました。



入場行進



一斉放水



献血ご協力ありがとうございました

平成30年1月16日（火）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方々にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いします。

今回は、平成30年6月頃に予定していますので、ご協力よろしくをお願いします。

冬の団体献血

・ 献血受付数	・ 37名
・ 献血できた方	・ 34名
	(400ml・32名)
・ 献血できなかった方	・ 3名

市民大学公開講演会開催

平成29年12月16日（土）イーブルなごやホールにおいて、名古屋市教育委員会・日本福祉大学主催（協力：愛知医科大学）の市民大学公開講演会が「健康なくらしの実現に向けて～睡眠・食事・運動の大切さ～」をテーマに開催され、約250名の市民の方々に参加頂きました。

本学からは、睡眠科の塩見利明教授が講師を務め、「睡眠医療の最前線～不登校生を復学・進級・進学させる～」と題した講演を行いました。

塩見教授からは、睡眠医学の立場から、在宅光（ブルーライト）療法と薬物療法を併用した睡眠衛星指導によ

り、朝の決められた時刻に不登校生を目覚めさせることはほぼ可能になってきているが、なかなか学校にいけない、あるいは保健室登校になっているなどの問題は山積され、医学的な介入だけでは済まされない現状があることから、教育関係者の方々には生徒たちの睡眠の悩みについて詳しく理解してほしいと話されました。

また、本院睡眠科における「ナルコレプシー外来」や「起床困難・不登校外来」などの専門外来についても触れながら、睡眠医療の最前線の現況を紹介されました。

学長招聘講演会を開催しました ハワイ大学・古田 将先生

平成29年11月10日（金）午後6時から大学本館202講義室において、本学医学部卒業生（平成16年）で、現在はハワイ大学・外科の古田将先生を講師にお招きし、「Doctor by the Ocean - Dreams will come true, if you believe in yourself -」と題し、学長招聘講演会が開催されました。

古田先生は、本学を卒業後、春日井市民病院にて初期研修を終え、平成18年から刈谷豊田総合病院の麻酔科及び救急・集中治療部において研鑽を積まれました。平成22年からは、ハワイ大学のサージカルICUリサーチフェローとして在籍され、その後平成24年から平成29年にかけて外科レジデンシーを修了され、現在はハワイ大学の外科医として活躍されています。

講演では、ハワイで働くまでの道のりについて、たくさんの写真を交え、当時の心境や人との出会いに触れながら分かりやすくお話を頂き、幾多の困難な局面に立っても、渡米してハワイで働くことを諦めずに自分を信じて努力し続けてこられた古田先生の話に、教職員や学生、先生と同級生などたくさんの参加者が熱心に耳を傾けていました。

また、ハワイ大学での日常生活についてもお話を頂き、職場での働き方や日米の医療現場での違いや日本が見習うべきポイントについても説明されました。

講演会終了後は、立石プラザにおいて古田先生を囲ん



講演する古田先生



古田先生を囲んで記念撮影

で、学生を中心とした懇親会が和やかに開催されました。
貴重なご講演ありがとうございました。

平成29年度愛知県災害医療コーディネーター研修開催

平成29年11月23日（木・祝）及び平成30年1月8日（月・祝）に愛知県医師会館において、本学と愛知県、愛知県医師会の三者共催による平成29年度愛知県災害医療コーディネーター研修が医師及びロジスティクス（医師・看護師以外の病院職員で「調整員」という）向けにそれぞれ開催されました。【写真】

1回目は、医師を対象に愛知県の災害時における医療調整機能の強化を図ることを目的として、地域において災害時に医療チームの派遣調整、患者の受け入れや搬送の調整を課題とし、その活動に必要な知識の習得と県共通の認識を共有するための研修プログラムで実施されました。講師には、昨年度と同様に災害医療ACT研究所の方々を招へいしました。

研修会には、地域災害医療コーディネーターを始め、県内の保健所や各地域の医師会から41名が参加し、災害想定等を各地域の地図に書き込みながら、救護計画の策定や本部運営・救護班調整演習等を行いました。

2回目は、地域災害医療コーディネーターをサポートするロジスティクス向けに大規模災害時の円滑な災害医療対応を学ぶことを目的とし、90名が参加し、国立病院機構災害医療センター DMAT事務局などから派遣された講師により運営されました。

東日本大震災や熊本地震の医療活動経験から、発災直後の急性期から亜急性期にかけての医療活動の課題として、移行期における医療チームと国、県、地域、市町村の連携のあり方が指摘され、コーディネーター制度の充実



が重要との認識が広まりました。その結果、今年度からロジスティクス対象の研修会も開催される運びとなりました。

本学では、南海トラフ地震や各種災害における迅速な対応と犠牲者を減らすべく、災害医療の教育・研究をより積極的に進めて参ります。

愛知警察署感謝状の贈呈

本学が日頃から警察業務へ積極的に協力するとともに、安心で安全なまちづくりに大きく貢献したことに對して、平成30年1月12日付けで愛知警察署長から感謝状が贈呈されました。【写真】

これは、本学職員の大学付近の交差点での交通安全県民運動に係る街頭活動への積極的な参加や、本学が定期的に医学部、看護学部の学生を対象に警察関係者による「交通安全講習会」を開催することで、交通事故を防止するための交通マナーの普及及び交通安全意識の高揚を図ることに努めていることに對して贈られたものです。

本学は医科大学として、医療だけでなく、地域住民の皆さんとともに安心・安全な生活が守られるよう、今後とも様々な方面で貢献して参ります。



第30回日本医学会総会2019中部の成功に向けて

理事長 三宅 養 三

第30回日本医学会総会が、名古屋大学名誉教授の齋藤英彦会頭の下、2019年4月26日（金）～29日（月・祝）に名古屋で開催されます。これは、日本医学会の中で最大の学会であり、第一回の昭和2年から4年毎に開催されてきました。中部地区では、過去に2回開催されており、今回は平成7年の飯島宗一会頭による第24回以来の24年ぶりとなります。

学会の総題は「医学と医療の深化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～」であり、今回の医学会総会は、現在日本の医学・医療が直面する多くの重要な側面に医療人並びに市民がどのように対峙するかを考える国民的行事です。医学は進歩し、医療は生きています。この学会で特に強調したい主点を四つ示します。

一つ目は、再生医療、遺伝子医療などの既に日常医療の中へ組み込まれつつある先端医療と人工知能、医療用ロボットなどの最新医療機器の開発と普及等のこれから大いに発展が期待される医療です（医学と医療の新展開）。二つ目は、超高齢・人口減少社会に対応できるような医療のかたち、国のかたちをどのように整備するかです。これには、一般市民への教育、一般市民からの協力も欠かせません（社会とともに生きる医療）。三つ目は、

その対応には生涯を通じた医療者教育、価値観を踏まえた各医療者の適正配置、多職種による連携がますます重要になります（医療人の教育と生き方）。四つ目は、アジアを中心とした諸外国との人的・物的・制度的な交流はますます進み、日本の医療の国際貢献のあり方が更に問われる時代となります（グローバル化する日本の医療）。

このように、多くの重要な課題について、医療者と市民とが一体となり、医学と医療の深化と広がりを感じ取れる学会を目指します。

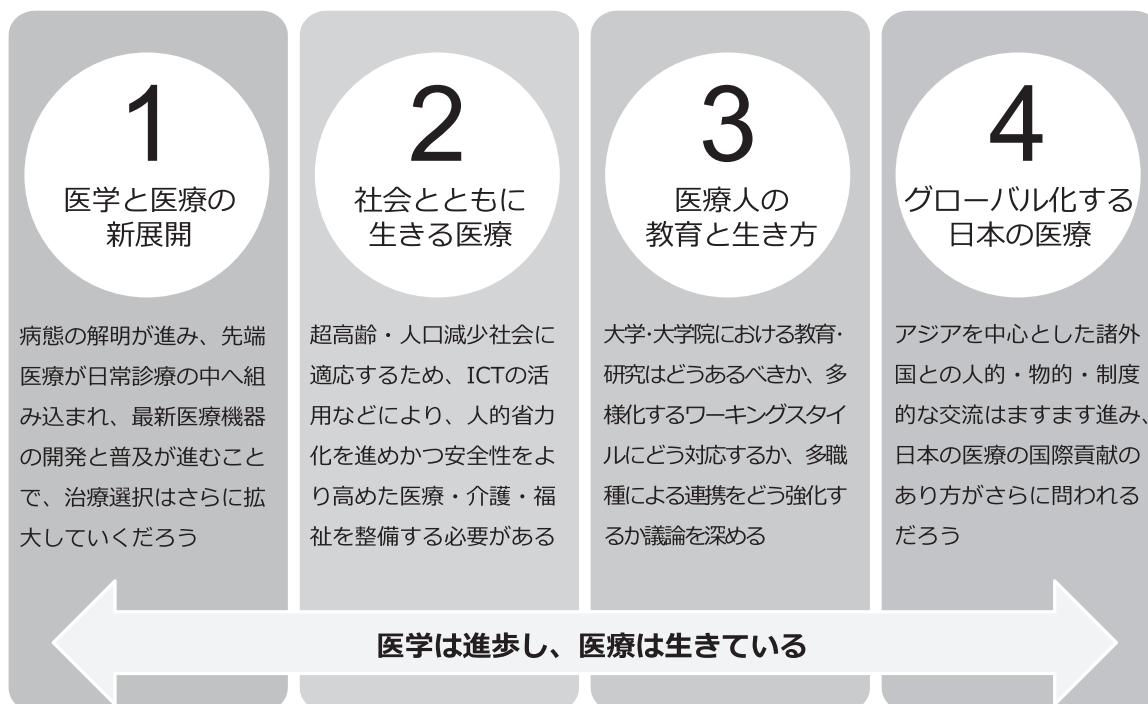
愛知医科大学の医療職員はもとより、医学部・看護学部の学生の皆さんも、ぜひ四半世紀毎に地元で開催されるこの学会にご参加下さい。本学からは、佐藤啓二学長と私がこの学会の役員として加わっており、多くの職員が講演者にも選ばれております。

今回の学会には、学部教員の全ての方に、大学から登録料を支払うつもりでおります。これは、多くの職員にぜひともこの学会に参加して勉強してほしいことと、日頃診療・研究・教育に大変成果を挙げて頂いていることに対する、大学からの感謝の気持ちです。

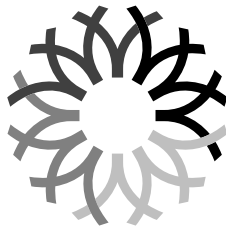
第30回 日本医学会総会 2019 中部

医学と医療の深化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～

日本の医学・医療はこれからどう変貌を遂げていくのか、四つの柱に沿って整理したい



基本構想（学会事務局より提供）



第30回 日本医学会総会 2019 中部

医学と医療の深化と広がり ～健康長寿社会の実現をめざして～

学術集会

2019年4月27日(土)～4月29日(月・祝)
名古屋国際会議場、名古屋学院大学白鳥学舎、ウインクあいち

学術展示

2019年4月26日(金)～4月29日(月・祝)
名古屋国際会議場、ポートメッセなごや

会頭

齋藤 英彦
名古屋大学名誉教授

副会頭

松尾 清一 名古屋大学総長
郡 健二郎 名古屋市立大学長
駒田 美弘 三重大学長
星長 清隆 藤田保健衛生大学長

柵木 充明 愛知県医師会長
森脇 久隆 岐阜大学長
今野 弘之 浜松医科大学長
佐藤 啓二 愛知医科大学長

準備
委員長

高橋 雅英 名古屋大学理事

顧問

三宅 養三 愛知医科大学理事長

事前参加登録のご案内

2018年2月1日(木)正午～2019年4月5日(金)正午まで

分科会応援早割 (対象：医師・歯科医師・研究者)

2018年2月1日(木)正午～10月31日(水)正午まで

参加登録区分 (区分は、登録時の身分とする)	分科会応援早割 2018年2月1日(木)正午～ 2018年10月31日(水)正午まで	事前参加登録 2018年2月1日(木)正午～ 2019年4月5日(金)正午まで	当日参加登録 2019年4月27日(土)～4月29日(月・祝)
医師・歯科医・研究者	25,000円	30,000円	35,000円

各種研修制度との連携

- 産業医・健康スポーツ医研修単位が取得可能です。(別途5,000円・産業医最大6単位取得可能)
※早期からのご登録が可能です。事前申込みのみ(定員制・先着順)
- 日本医学会分科会(一部)の研修単位が取得可能です。分科会の認定する専門医制度等について、分科会規定に基づき単位取得が可能です。
- 日本医師会生涯教育制度学習単位が取得可能です。受講内容に応じて日本医師会生涯教育制度の単位およびカリキュラムコードの取得が可能です。

事前参加登録完了後に産業医セッション受講申込専用サイトをご案内します

事前参加登録はこちらから ▶ <http://isoukai2019.jp/>



同時期開催

第116回日本内科学会総会・講演会

2019年4月26日(金)～4月28日(日)

会長 **長谷川 好規** 名古屋大学大学院医学系研究科
病態内科学講座 呼吸器内科学 教授

ポートメッセなごや

「第30回日本医学会総会 2019 中部」参加により総合内科専門医認定更新単位：10単位、認定内科医認定更新単位：5単位が取得可能です。

■主催：日本医学会

■主務機関：名古屋大学医学部、名古屋市立大学医学部、藤田保健衛生大学医学部、愛知医科大学、岐阜大学医学部、三重大学医学部、浜松医科大学、金沢大学医学部、金沢医科大学、福井大学医学部、富山大学医学部、信州大学医学部、愛知県医師会、岐阜県医師会、三重県医師会、静岡県医師会、石川県医師会、福井県医師会、富山県医師会、長野県医師会

(学会事務局より提供)

教授就任インタビュー



脳血管内治療センター・教授

みやち しげる
宮地 茂

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

近年の低侵襲医療の需要の急速な高まりの中で、脳神経外科領域においてもカテーテルを用いた血管内治療のウェイトが大きくなってきています。その中で最も数の多い動脈瘤の塞栓術については、新しいテクニックをどんどん取り入れ、安全かつ適切な塞栓術を目指したいと思います。更に急性期脳梗塞治療、特に血栓回収療法に積極的に取り組んで参ります。昨年には、最新の血管撮影装置が導入され、症例数も飛躍的に伸びましたが、今後も関連診療科間及び病診・病病連携を通じて、治療困難な症例にも挑戦し、愛知県の脳血管内治療の中心となるべく努力して参ります。

教育については、得意分野に偏ることのないバランスのとれた、またプロ意識の高い臨床医の育成を目指します。特に脳卒中医療の学習において、内科的診断、治療及び理学療法も含めた横断的な教育を関連各科と共同して行っていけたらと思っております。

研究としては、医工連携による新しい診断、治療法の開発を行って参ります。産学連携、企業主導も含めた幅広いプラットフォームを研究基盤とし、疾患、患者オリエントの研究を行っていきたく思っています。特に著しい進歩を見せるロボティクスを取り入れ、脳血管内治療支援ロボットを開発しており、これを遠隔医療にも役立てたいと思っております。何卒宜しくご指導、ご支援のほどお願い申し上げます。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

脳神経外科としての研修が済み、専門医を取得した後、自分のsubspecialtyを何にしようか迷っていた頃です。「内頸動脈海綿静脈洞瘻」という外傷で動脈に穴が空き、静脈とシャントを作ってしまった症例に出会いました。動脈からバルーンを入れてその穴を塞いだら、飛び出しそうになっていた眼球が一夜にして治ってしまったという劇的な体験をし、「これはすごい。」と感動しました。当時はまだ始まったばかりの治療法で、現在のような道具も揃っていない時代でしたが、非常に将来性を感じ、この道を極めることにしました。その後、飛躍的に新しいデバイス、技術が開発され、今やわが国の脳外科医の3分の1が脳血管内治療に携わるという世界的に見ても稀有な発展をしてきており、脳神経外科の中での重要な治療の柱の一つとなってきたことに誇りを感じるとともに、大きなやりがいを感じております。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

これからの医療は、大きな変革期を迎えます。先端医療開発及び臨床応用については、医療財政とのバランスのとれた適用が求められることとなります。その中で、特殊な最新治療を行えるのは、限られたエキスパートに限られる時代となるでしょう。また、医療現場にもロボティクスとAIが押し寄せて来れば、人間でなければできない仕事以外はどんどん取って代わられてしまいます。更にITを用いて、今は患者さんも医者を選べる時代になり、質の悪い医師は淘汰されます。知識だけでなく、自分の手に確かな技術を持つことが必要だという認識を持ってください。漫然と学生時代を過ごすのではなく、将来の自分のスキルアップのために、今しかできないことにチャレンジしてください。我々の科は、上述した目的を達成できる絶好の領域の一つです。気概を持った皆さんの参加を待っています。



上海での講演後の懇親会にて



クリティカルケア看護学・教授

あべ けいこ
阿部 恵子

— 教授就任に当たっての
抱負を聞かせてください。—

平成20年から、医師の診療の一部の医療行為ができる診療看護師（ナースプラクティショナー：NP）の養成が日本で開始され、現在、約350名のNPが社会に送り出されています。しかし、歴史はまだ浅く、制度が確立されていないこともあり、現場での認知度が低いのが現状です。本学看護学部クリティカルケア看護学領域では、平成26年度からNPの養成を始め、今年度の卒業生を含めると10名のクリティカルケア領域のNPが養成され、麻酔科、ICUなどで医師の包括的指示の下、看護を基盤とした医療行為を行ってきました。

これまでのクリティカルケア領域の教育プログラムの更なる充実に加えて、今後、プライマリケア領域、在宅ケア領域の養成を進めていきたいと考えています。NPが在宅医療で活躍することで、医師の往診を待たずにカニューレ交換やデブリードマン等の医療処置ができ、タイムリーな対応が可能となります。また、NPの領域を拡大することで、ICUから在宅へと連続性を持たせた患者ケアも可能となります。有能なNP育成に向けて、講義、臨床実習に加え、シミュレーターのみならず模擬患者を活用したシミュレーション教育を充実させ、体験学習から手技とコミュニケーションを省察し定着を促します。医師との連携の下、最大限に能力を発揮できるようなNPの育成に努力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

— 現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

助産師時代に医師への報告に頭を悩ませていた経験から医療者間のコミュニケーションの難しさを痛感し、また、患者としての入院経験から、想像以上の患者の不安を体験し、医療者のちょっとした態度、言葉がけが患者の心に大きな影響を与えると感じました。このことから、医療者と患者のコミュニケーション、チームコミュニケーションに興味を持ち、研究を続けてきました。昨今、注目されている多職種連携教育では、職種ごとに独特の文化（共文化）が存在し、コミュニケーションのバリアになっていることが分かってきました。各専門職の知識以上に、チーム医療を円滑にするために、このバリアを減少させるべく学習プログラムの作成にやりがいを感じています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

看護師は、緻密で真面目、でも自信がないと発言できないという特性があると思います。細部を丁寧に考えることは重要ですが、全体を俯瞰してみる視点も更に重要です。そのためには、外の世界を見て、価値観の幅を広げることが有用です。昨今のグローバル化により、20年前と比べて海外へのアクセスが格段に容易になり、今や私たちは、地球村の住人と言えます。学生の頃から、積極的に海外の医療や文化に触れ、異文化体験を通して、型にはまらない多角的な視点を身につけ、高度・多様化する患者さんの理解を深められる広い視野を持った看護師を目指して欲しいと思います。

オフショット



娘達との旅行（ラスベガスのショッピングモールにて）

平成30年度入学試験開始

今年もいよいよ入試シーズンの幕開けとなりました。

本学においても医学部、看護学部、大学院の入試が行われています。いずれの試験においても、受験生の合格への意気込みが感じられました。

《医学部》

●推薦入学試験

<公募制>

- ①試験日 平成29年11月18日(土)
- ②志願者数 156名
- ③受験者数 155名
- ④合格者発表 平成29年11月24日(金)
- ⑤合格者数 25名

●国際バカロレア入学試験

- ①試験日 平成29年11月18日(土)
- ②志願者数 2名
- ③受験者数 2名
- ④合格者発表 平成29年11月24日(金)
- ⑤合格者数 1名

●一般入学試験

<第1次試験>

- ①試験日 平成30年1月23日(火)
- ②志願者数 1,976名
- ③受験者数 1,875名
- ④合格者発表 平成30年1月29日(月)
- ⑤合格者数 402名

<第2次試験>

- ①試験日 平成30年2月1日(木)・2日(金)
- ②合格者発表 平成30年2月8日(木)

●大学入試センター試験利用入学試験

<第1次試験>

- ①試験日 平成30年1月13日(土)・14日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
平成30年2月8日(木)

<第2次試験>

- ①試験日 平成30年2月15日(木)
- ②合格者発表 平成30年2月22日(木)

●愛知県地域特別枠入学試験

<A方式>

- ①試験日 平成29年11月18日(土)
- ②志願者数 15名
- ③受験者数 15名
- ④合格者発表 平成29年11月24日(金)
- ⑤合格者数 5名

<B方式>

<第1次試験>

- ①試験日 平成30年1月13日(土)・14日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
平成30年3月5日(月)

<第2次試験>

- ①試験日 平成30年3月9日(金)
- ②合格者発表 平成30年3月15日(木)

《看護学部》

●推薦入学試験

<指定校制>

- ①試験日 平成29年11月11日(土)
- ②志願者数 13名
- ③受験者数 13名
- ④合格者発表 平成29年11月21日(火)
- ⑤合格者数 13名

<公募制>

- ①試験日 平成29年11月11日(土)
- ②志願者数 50名
- ③受験者数 50名
- ④合格者発表 平成29年11月21日(火)
- ⑤合格者数 18名

●社会人等特別選抜

- ①試験日 平成29年11月11日(土)
- ②志願者数 4名
- ③受験者数 2名
- ④合格者発表 平成29年11月21日(火)
- ⑤合格者数 1名

●一般入学試験

- ①試験日 平成30年1月28日(日)
- ②志願者数 589名
- ③受験者数 583名
- ④合格者発表 平成30年2月7日(水)

●大学入試センター試験利用入学試験 (A方式・B方式)

- ①試験日 平成30年1月13日(土)・14日(日)
- ②合格者発表 A方式・B方式:
平成30年2月7日(水)

《大学院医学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
基礎医学系、臨床医学系各専攻合わせて19名
- 2 出願期間
平成29年12月11日(月) から
平成29年12月25日(月) まで【必着】
- 3 入学者選考方法
入学者は、学力試験及び出身大学の調査書を総合して選考する。
①試験日 平成30年2月9日(金)
②試験項目及び時間

時 間	試験項目
10:00 } 12:00	外国語(英語)[辞書使用可, 電子辞書不可] ※ 外国人志願者の外国語試験は、英語一カ国語のみによる試験又は英語と日本の二カ国語による試験のいずれかを選択する。
13:00 }	面接試問(志望する専攻分野に関連する専門試験を含む)

- 4 合格者発表
平成30年2月23日(金)
- 5 入学手続期間
平成30年2月26日(月) から
平成30年3月5日(月) まで
- 6 出願書類提出先
愛知医科大学医学部庶務課大学院係

《大学院看護学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
看護管理学, 母性看護学, 精神看護学, 地域看護学, 感染看護学, クリティカルケア看護学の各領域合わせて6名
※クリティカルケア看護学領域は、高度実践看護師(診療看護師)コースのみ募集
- 2 出願期間
平成30年1月9日(火) から
平成30年1月22日(月) まで【消印有効】
- 3 入学者選考方法
入学者の選抜は、学力試験, 小論文, 面接及び出願書類等を総合して判定する。
①試験日 平成30年2月8日(木)
②試験科目及び時間等

時 間	試験科目等
9:00 ~ 10:30	小論文
10:45 ~ 12:15	専門科目(※)
13:15 ~	面接

※専門科目の出題について

- ①修士論文コース: 志願する専攻領域
- ②高度実践看護師(専門看護師 [CNS]) コース: CNS関連分野
- ③高度実践看護師(診療看護師)コース: 関連領域の病態生理学
- 4 合格者発表
平成30年2月14日(水) 正午ごろ
- 5 入学手続期間
平成30年2月15日(木) から
平成30年2月21日(水) まで
- 6 出願書類提出先
愛知医科大学看護学部教学課大学院係



平成30年度学年暦のご紹介

平成30年度の医学部及び看護学部の主な学年暦を紹介します。

医 学 部	
4月1日	前学期開始
4月2日	5・6学年次前学期授業開始
4月3日	入学式
4月4日・4月9日	新入生ガイダンス
4月5日～4月6日	1学年次合宿研修
4月9日	1・2学年次学生定期健康診断 2～4学年次前学期授業開始
4月10日	1学年次前学期授業開始 3・4学年次学生定期健康診断
4月13日	5・6学年次学生定期健康診断
5月11日	5・6学年次総合試験A
5月14日	解剖慰霊祭
5月21日～5月25日	4学年次定期試験
5月28日～6月1日	1学年次早期体験実習 (シミュレーション実習)
6月11日～6月15日	1学年次早期体験実習 (看護体験実習)
7月17日～7月27日	3学年次定期試験
7月21日	5学年次pccOSCE体験 6学年次pccOSCE
7月23日～7月31日	4学年次定期試験
7月23日～8月19日	5学年次夏季休業
7月23日～9月2日	6学年次夏季休業
7月30日～9月2日	1～3学年次夏季休業
8月1日～8月26日	4学年次夏季休業
8月28日	4学年次共用試験CBT
9月3日	1・2学年次後学期授業開始
9月10日～9月14日	1学年次早期体験実習 (臨床科見学実習)
9月10日～9月21日	3学年次地域包括ケア実習
9月24日	3学年次後学期授業開始
9月29日	3学年次アーリーエクスポージャー 4学年次共用試験OSCE
10月1日～10月5日	4学年次地域医療早期体験実習
10月15日	4・6学年次後学期授業開始
10月15日～10月16日	5・6学年次第1回総合試験B
10月18日	1～3学年次総合防災訓練
10月27日	4学年次白衣式
11月3日～11月4日	医大祭
11月5日	5学年次後学期授業開始
11月21日～11月22日	5・6学年次第2回総合試験B
12月17日～1月6日	6学年次冬季休業
12月24日～1月3日	5学年次冬季休業
12月24日～1月6日	1～3学年次冬季休業
12月29日～1月6日	4学年次冬季休業
1月4日	5学年次総合試験C
1月11日～1月18日	2学年次チーム医療実習
2月4日～2月8日	2学年次地域社会医学実習
3月2日	卒業証書・学位記授与式
3月4日～3月31日	1～3学年次春季休業
3月11日～3月31日	6学年次春季休業
3月18日～3月31日	4・5学年次春季休業

看 護 学 部	
4月3日	入学式
4月4日・5日・9日	新入生ガイダンス
4月4日	2～4学年次前学期授業開始
4月6日	新入生研修
4月9日	2・3学年次学生定期健康診断
4月10日	1学年次前学期授業開始 1・4学年次学生定期健康診断
6月23日	2学年次キャンドルセレモニー
7月2日～7月6日	2学年次定期試験
7月13日	4学年次定期試験
7月23日～7月27日	3学年次定期試験
7月30日～8月3日	1学年次定期試験
7月30日～9月17日	3・4学年次夏季休業
8月6日～9月17日	1・2学年次夏季休業
9月18日	1～4学年次後学期授業開始
10月17日	1・2学年次総合防災訓練
11月3日～11月4日	医大祭
12月25日～1月6日	1～3学年次冬季休業
12月25日～1月10日	4学年次冬季休業
1月21日～3月31日	4学年次春季休業
1月22日～1月31日	1学年次定期試験
1月28日～2月8日	2学年次定期試験
2月1日～3月31日	1学年次春季休業
2月7日～2月8日	3学年次定期試験
2月12日～3月31日	2・3学年次春季休業
3月2日	卒業証書・学位記授与式

白 衣 式 挙 行

平成29年11月2日（木）午後3時30分から大学本館たちばなホールにおいて、平成29年度白衣式が挙行されました。

白衣式では、共用試験CBT・OSCEに合格し、後期課程への進級及び臨床実習への参加が認められた医学部4学年次生を「Student Doctor」に認定します。学生は新しい実習衣を身に着け、白衣式に臨みました。

初めに、岡田尚志郎医学部長から、臨床実習に臨む者としての心構えについて話があり、代表者へStudent Doctor証書が授与されました。引き続き、石橋宏之教務部長を始め、6名の臨床医学系教授から学生一人ひとりにStudent Doctorのワッペンが授与されました。

続いて、三宅養三理事長、佐藤啓二学長、羽生田正行病院長、小池三奈美看護部長に加え、臨床実習を終えた医学部6学年次生の福井隆彦さん、昨年度本学を卒業し研修医1年目の橋本康平医師からも激励のあいさつがあり、終わりに学生代表の加陽直貴さんが宣誓文を読み上げ、全員が復唱するという形で学生宣誓が行われました。この宣誓文は、これから臨床実習に臨むに当たっての心



代表して宣誓をする加陽さん

構えなどを事前に学生自身がグループワークを行い、話し合っって作成したものであり、自分たちで考え、言葉にすることで、自らの臨床実習への意識付けや行動規範とするものです。

また、白衣式終了後、たちばなホール壇上において記念撮影をし、その後、レストランオレンジで開催された教員との懇親会では、これから始まる臨床実習に向けて、実際の現場の声を聞くこともでき、学生それぞれが決意を新たに次のステップを踏み出しました。

医学部2学年次生外来案内実習実施

平成29年12月12日（火）～14日（木）中央棟において、医学部2学年次生の授業科目「医学・医療と社会」の一環として、外来案内実習（患者さんエスコート実習）が行われました。【写真】

この実習は、医学生として患者さんの診察受付から会計、薬の受け渡しまで同行し、患者さんがどのように診療を受けているか、また、医療の実態を知ることで医療がどうあるべきか、医療従事者とはどのようにあるべきかを自分自身に問いかけることを目的とし、2学年次生112名が参加しました。更にこの実習では、患者さんとのコミュニケーションの大切さを学び、将来、医師となる上での自覚を深め、日々の学習に活かすことも期待されています。

実習初日、中央棟オアシスホールに集合した学生は、科目責任者の鈴木孝太教授（衛生学講座）を始め、関係教員の指導の下、まずは来院患者さんに付き添いの承諾を得ることから実習を開始しました。

学生の多くは、緊張した面持ちで声をかけていましたが、診察などを待つ時間に患者さんとコミュニケーションを図り、患者さんから「荷物を持ってもらって助かった。」「親切で気分が落ち着いた。」「次の機会にもお願いしたい。」などの感謝のお言葉を頂きました。また、学生らも患者さん一人ひとりと向き合うことの大切さを実感したようです。

今後もこの実習は継続し、患者さんの立場に立てる良き医師の育成に努めていきます。



看護学部一日体験入学開催

平成29年11月4日（土）看護学部実習室において、看護学部一日体験入学が開催されました。【写真】

高校生を対象として、看護学部における講義の実際を体験することで、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めて頂くことを目的として開催されています。

当日は、40名の高校生が参加し、午前中の体験授業（テーマ「胎児のひみつーお腹の赤ちゃんにできること？できないことー」）では、緊張する中で皆真剣に聞き入っていました。

体験演習（テーマ「新生児バイタルサインズの測定技術、妊婦の行動、新生児の抱き方」）では、盛りだくさんの内容で、赤ちゃんの心拍数や呼吸数を実際に測定したり、大きなお腹で階段を昇る体験をしました。妊娠から出産までの経過を学習し、妊婦さんの大変さや命の尊さを興味深く学ぶ機会になりました。

昼食は、アシスタントを務める看護学部生と歓談しながら交流を深め、午後からはドクターヘリ、ドクターカーを見学しました。



参加した高校生からは、「貴重な体験ができ勉強になった。」「助産師になりたいと思った。」「進路を考える良い参考になった。」「在学生と話ができとても良かった。」「ドクターヘリを間近で見ることができ良かった。」などの感想が寄せられ、参加した高校生にとっては、貴重な体験を通してとても有意義で充実した一日となりました。

就職活動支援

周りに好印象を与える就活メイク講座開催

平成30年1月12日（金）午後4時30分から看護学部棟3階N301講義室において、就職活動での身だしなみマナーを学ぶため、就職活動を控えた看護学部3学年次生を対象に、周りに好印象を与える就活メイク講座が初めて開催され、40名が受講しました。【写真】

本講座は、株式会社エス・エム・エスキャリア「ナース専科」にご協力を頂き、POLAのフェイシャルエスティシャン17名の指導の下、グループに分かれての実践形式で講習が行われました。

清潔感のある基本ベースメイクの方法やアイブローでの安心顔の作り方、優しい目元の作り方などプロならではのきめ細やかな指導があり、参加した学生は就職活動に向けて好印象を与えるメイクへの意識が大きく変わりました。また、スキンケアの方法や清潔感、表情も合わせてメイクすることの大切さを学びました。

受講した学生からは、「これから就職活動をしていく中で、各病院のインターンシップや面接試験などで活用し、周りから見られる自分を意識できる良い機会となった。」など多くの感想が寄せられ、大変有意義な講習会となりました。



学生表彰

平成29年8月8日(火)～20日(日)山口大学医学部を主幹校として開催された第69回西日本医科学生総合体育大会において、医学部1学年次生の松村育弥さんが水泳男子400m個人メドレーで大会新記録を樹立し優勝しました。団体部門では、サッカー部が準優勝、ゴルフ部男子が3位に入賞しました。

また、平成29年8月3日(木)～8月5日(土)日本医科大学及び東京女子医科大学を主幹校として開催された第32回全日本医科学生アーチェリー競技大会において、医学部2学年次生の加藤麻菜美さんが女子ハーフ部門、医学部1学年次生の堤明日香さんが女子グリーン部門でそれぞれ優勝しました。

これに伴い、平成29年11月1日(水)学長室において、松村さん、加藤さん、堤さんに対して、他の学生の模範となったとして、佐藤啓二学長から表彰状等の授与が行



記念撮影

左から岡田医学部長、加藤さん、松村さん、堤さん、佐藤学長

われました。

今後も、文武両面で、表彰される学生が続くことを期待します。

愛知医科大学不老会会員の集い開催

平成29年11月11日(土)午前10時30分から大学本館たちばなホールにおいて、平成29年度愛知医科大学不老会会員の集いが開催されました。

当日は、不老会の役員及び各地域代表、本学部会会員並びに一般の方101名の参加があり、本学からは、岡田尚志郎医学部長、解剖学講座の内藤宗和教授及び中野隆教授、そして、関係教職員26名並びに医学部学生が参加しました。

会員の集いは、成願された方々への黙とうで始まり、岡田医学部長及び不老会愛知医科大学部会の笠原英城部会長のあいさつがあり、来賓の北村直哉不老会理事長からごあいさつを頂きました。

最後に、学生体験を医学部学生の代表として3学年次生の中山幹都さんから「解剖学実習を通して、様々なご献体で丁寧に学んでいく中で、人体の構造が一人ひとり少しずつ異なっていることを実感しました。この学びは、将来医師となった際、患者さん一人ひとりに適した医療を考えていく基礎となるものだと思います。教科書の知識のみに捉われることなく、目の前の患者さんご自身と向き合う、医師としての基本的な精神を教えてくださいました。現在、私たちは三年生となり、医学のより専門的な内容を学んでおります。しかし、どの分野や疾患においても、人体の構造や機能の理解なしには身に付けられるものではありません。解剖学の講義や実習で学んだことは、医学の礎といえるものであり、その重要性を日々実



あいさつする岡田医学部長

感しながら、勉学に取り組んでおります。不老会会員の皆さま方、また、ご家族の方々のご理解とご厚意に深く感謝し、愛知医科大学学生一同、心からお礼申し上げます。」と感謝を込めた発表がありました。

会員の集いに引き続き、医学教育センターの青木瑠里講師から「緊急時、その時あなたはどうなるの」をテーマに記念講演が行われ、参加者に分かり易く講演されました。

その後、大学本館1階レストラン「オレンジ」において、参加者と医学部学生及び教職員との昼食・懇談会が和やかに行われ、参加者は医学部学生、教職員が見送る中をそれぞれ帰途につきました。

平成29年度第4回大学院看護学研究科特別講義開催

平成29年11月25日(土)午後1時30分から大学本館303講義室において、武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科教授の倉石哲也先生を講師にお招きし、「家族支援の見立てーレジリエンス・ストレングス・リフレーミング」というテーマで、看護学研究科特別講義が開催されました。

講義では、「共依存ー巻き込まれやすい家族」、「支援葛藤」、「支援ストレス」、「チームワーク」、「困難の見立て」などのテーマごとに事例を交えながら、家族の現状

や支援者の葛藤などについて紹介されました。家族を対象に支援するには、それなりの工夫と苦心が必要であることや、工夫や苦心は支援者の認識によるところであると説明がありました。

家族支援を円滑に行うには、家族と支援者との距離感がポイントであり、適度な距離を保つにはチームワーク意識も助けになることや家族支援においては、支援者の見立ても重要であり、支援者間のサポート体制が不可欠であることを強調されました。



ウッチ医科大学留学体験記

本学では、ポーランドのウッチ医科大学（MUL：Medical University of Lodz）と平成27年度に学術国際交流協定を締結して以降、更なる国際交流の拡充を目指して、学生の交流活動を中心に積極的に活動しております。そのプログラムの一環として、臨床実習選択（elective）コースへ本学医学部学生を派遣しています。

平成29年度のプログラムとして、平成29年11月4日（土）から12月17日（日）まで4名の学生が留学しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。

「MUL臨床実習選択コース」への派遣者

医学部5学年次生 糸見 百合子

臨床実習の最中、新しく協定校となったポーランドのウッチ医科大学へ留学する機会を得ました。今回の留学で学んだことは数多くありますが、そのうち最も心に深く刻み込まれたのは積極性です。今までは、既に用意された学習プログラムがあり、同じ課題に立ち向かい、協力するチームがありましたが、34週間に渡るBSLにおいて、私はそれを認識することなくポーランドに向かいました。実習先では定められたカリキュラムがなく、自分から検査や回診に積極的に参加し、医療に携わる一員として行動することが求められました。「控えめでいる必要はないよ。」と、先生や学生たちは助言してくれました。その結果、様々な経験を得ることができました。今は彼らの協力あって、それが成立していたのだと改めて実感しています。



医学部5学年次生 岩瀬 史歩

日本とは全く異なる土地で6週間生活をして臨床実習をするということは、新しい発見ばかりでした。ポーランドと日本の相違点は数えきれないほどあり、そのような環境に身を置くことで、ポーランドについて見聞を広めるのと同時に、世界から見た日本という視点で母国の医療や文化について再認識できました。医療機器や設備において、日本は充実していますが、保険制度や福祉という点において、ポーランドでは少子化対策として正常分娩にも公的医療保険が給付されるなど、現代社会に対応した柔軟性を感じました。素敵な先生方や学生との交流もあり、この留学はまさに“百聞は一見に如かず”という言葉通りの貴重な経験となりました。



岩瀬さん（中央）

医学部5学年次生 中島 文

今回ポーランドの第2の都市にあるウッチ医科大学に交換留学し、産科、救急麻酔科、一般外科で計6週間臨床実習を行いました。日本と異なる医療現場を体験でき、とても貴重な機会となりました。例えば、日本では保険適用外の肥満へのバイパス術に参加し、ヨーロッパでは一般に肝嚢胞全例にエキノコックスの免疫検査をすると知りました。また、EU加盟国内で通用する医師免許が発行されるため、海外で働くことが当然のように学生の視野に入っている点も印象的でした。留学という形で英語圏以外に行くことは初めてであり、日常生活面でも様々な困難があり、それらを乗り越え無事帰国できたことは大きな糧となりました。



医学部5学年次生 長嶋 愛

私は、神経内科と消化器内科を3週間ずつ選択しました。どちらの科でも、基本的に指導医とともに、毎日患者回診をしました。日本ではあまり見ない疾患の患者さんを現地では数多く診たり、疾患に特徴的な身体所見の取り方を教えて頂いたりしました。

ポーランド滞在中は、言語の壁や文化の違いについて不安に思うこともありましたが、国際協力担当の先生や事務の方、現地の医学生がとても気に掛けてくださり、周囲の環境に恵まれていたと思います。実習を通して知り合った医学生の一人とは、最後には自宅に招いてもらうほど親しくなり、交流を通して日本とポーランドの文化、医療制度、医学教育の相違を感じることができ、とても良い経験となりました



長嶋さん（左）

第44回医大祭に寄せて

実行委員長 医学部4学年次生 荒巻 佳祐

平成29年11月4日（土）、5日（日）に第44回医大祭が開催されました。【写真】

今回のテーマは「(R) evolution」というRevolution（革命）とevolution（進化）をかけたテーマでした。これには、教育革新が続く大学の医学教育に負けないような革新的な医大祭を創り、それを通じて学生が少しでも進化してほしいという実行委員会の願いが込められています。そこで、伝統は守りつつ革新的な企画を多く取り入れました。

医大祭期間中には、学生や地域の方にエネルギーを頂き、AED普及を目指すため同窓会長の浅井富成先生のご協力の下、メディカルプロレスを行いました。会場は大盛り上がりで、地域の方と学生が一つになれたと感じました。また、机の前では学べない、人との関わり方を教えてもらうべく笑福亭鶴瓶氏の講演会を学生のみが聴ける環境で行いました。講演は満員となり、素晴らしい講演をして頂きました。

この医大祭を通じて、大学と地域の方がより親密な関係を築き、学生が勉強以外の面で“進化”してくれたことを実行委員会一同強く願っております。

最後になりましたが、この大成功に終わった医大祭に多大なるご支援、ご協力賜りました全ての方々にこの場をお借りいたしまして御礼申し上げます。



学生ボランティアサークルHIAMU 医療ケアを必要とする子どもと家族が楽しめるイベント 「第4回もーやっこジュニアの広場」に参加

平成29年11月25日（土）瀬戸蔵（瀬戸市）において、瀬戸市・尾張旭市近郊の医療ケアを必要とする子どもと家族が楽しめるイベント「第4回もーやっこジュニアの広場」が開催され、本学の学生ボランティアサークルHIAMUが参加しました。【写真】

このイベントは、瀬戸旭医師会を始め、瀬戸市の終訪問看護ステーション、本学の学生ボランティアサークルHIAMUが中心となって、映画館で映画を見たり、外で遊ぶことができない子どもたちやその家族と一緒に楽しみを分かち合える場を作り、また、小児の在宅医療ケアを学ぶ機会を設けることを目的として企画・運営され、今回で4回目の開催となりました。

本学からも、在宅看護学の佐々木裕子准教授を始め、HIAMUの学生が運営スタッフとして参加しました。子どもたちやその家族が安心して楽しんでもらうことができるように、学生たちは意見やアイデアを出し合い、障害の度合いなども考慮しつつ、全ての子どもたちが楽しんでもらえるように準備を進めてきました。

今回は、大ホールでの映画上映会、子どもたちや兄弟が楽しめるレクリエーション、ご家族のためのパパママカフェ、小児在宅ケアに関する講演会や最新機器の展示などのイベントが行われ、子どもたちとその家族65名の方々にご参加頂きました。スタッフやボランティアを含めると約130名がこのイベントに参加し、例年以上に盛り上がりました。

このイベントを立ち上げ、映画上映などを担当した医学部6学年次生の都築侑介さんから「平成27年6月に初めて映画上映会を行い、その後も内容を看護研修を中心としたものに変えながら、規模を少しずつ大きくしてきました。小児在宅ケアを広め、活性化しようという取り組みは国内を始め、世界でもあまり聞いたことはありません。このような会の立ち上げに関わることができ、継続して参加できたことは、かけがえのない経験になりました。本当にありがとうございます。これからも続いていくこの活動に関わっていくとともに、多くの学生にもぜひ参加して頂き、色々な経験をしてもらえる場であってほしいと思っています。」と感想がありました。

また、子どもたちが楽しめるレクリエーションを担当した医学部6学年次生の川瀬牙加さんから「HIAMUのメンバーや訪問看護ステーションの方々と話し合いながらイベントを作り出していました。イベントに参加し、普段なかなか体験できない訪問看護の研修や在宅医療の実情についてのお話を聞くなど、楽しむだけでなく学びの場にもなりました。また、イベント開催に当たって、色々な職種の方との交流もでき、様々な視点から考える大切さを学びました。何よりイベントに参加することで患児さんたちに対する考えがガラリと変わり、自分自身



の成長を感じることができました。これからも、このイベントが継承され、在宅医療がどのようなものなのか皆さんに少しでも伝わってくれたらと思います。」と感想がありました。

その他にも、医学部3学年次生の黒田智子さんから「ハンディキャップの大小に加え、年齢層にも幅があるため、一人でも多くの子が楽しめるようにと毎年ブースの演目を考えるのに力を入れています。今回の演目は『魚釣り』と『写真立て作り』に加え、『小麦粉粘土遊び』や『的当て』ブースを取り入れ、大人も子どもも楽しめるブースになったと思います。感受性豊かな子どもたちにとって、何を作ろうか、この色とこの色を混ぜたら何色になるだろうかと想像力をフルに発揮できたようで、好評だったと思います。」、3学年次生の古屋佑夏さんから「1年生の時からこのイベントに参加させて頂いていますが、毎回先輩や訪問看護ステーション、医師会の先生を含む多くの方々が協力してイベントを成功させているのも間近で見て、まるで小説やドラマの物語のようだと感激していました。イベントに携わる全ての人が、子どもたちとご家族のことを思っていてらっしゃって、その気持ちに比例するようにイベントの規模も大きくなってきており、本当に素晴らしいことだと思います。この度、先輩方から引き継いで、『もーやっこジュニアの広場』のHIAMU代表を務めさせて頂くことになりました。先輩方のように大きな力はないかもしれませんが、この活動を後輩たちへ受け継げるように努力して参ります。今後ともよろしくお願ひします。」と感想がありました。

造血細胞移植センター設置

造血細胞移植センター・部長 高見 昭良

本院に平成30年1月1日付けで「造血細胞移植センター」が設置されました。

造血（幹）細胞移植は、抗がん剤や放射線治療の後、血液の種となる造血幹細胞を輸血する治療法です。白血病や骨髄異形成症候群、骨髄腫、アミロイドーシス、リンパ腫、再生不良性貧血などの患者さんが対象になります。

愛知医科大学病院は、最新の高機能無菌病室を備えています。本センターでは、造血細胞移植の安全性と有効性を更に高めるため、複数の診療科が円滑に連携して患者さんの治療に当たっています。血液疾患に関わる診療科にとどまらず、臓器横断的・集学的診療を主眼とした造血細胞移植センターは日本では珍しく、全国的にも注目を集めています。

世界糖尿病デー in 愛知医大2017開催

11月14日の「世界糖尿病デー」に合わせ、平成29年11月13日（月）～17日（金）の期間中、中央棟オアシスホールにおいて、糖尿病療養支援チーム主催により糖尿病予防・啓発を目的とした「世界糖尿病デー in 愛知医大2017」が開催されました。このイベントは、平成27年から毎年開催され、今年度で3回目になります。

会場には、ポスター展示や血糖測定体験、食品のカロリー展示やご飯の計量体験、運動療法体験、一般から募集した糖尿病川柳が掲示されました。また、健康情報室（アイブラリー）において、一般の方向けに糖尿病ミニセミナーを日替わりで開催した他、職員食堂及び病院レストランにご協力を頂き、ヘルシーランチ販売が実施されました。いずれも、実際に参加・体験できる企画が好評でした。

開催に当たり、長久手市を始め、瀬戸市や尾張旭市の広報誌で案内を行うとともに、開催期間中にNHKニュースで取り上げられたこともあり、糖尿病で通院・入院中の方に限らず、教職員や一般の来院者の方々も多数参加頂きました。

イベントを通して、多くの方に「糖尿病」について関心を持って頂く、良い機会となりました。



ポスター展示



糖尿病ミニセミナー

小児科病棟クリスマス会 ☆病室にサンタクロースがやってきた☆

平成29年12月7日（木）午後1時30分から8 A病棟プレイルームにおいて、小児科医局の協力の下、クリスマス会が行われました。

当日は、スタッフによるパフォーマンスなどイベントが盛りだくさんでした。

最後にサンタクロースから子供たち一人ひとりにプレゼントが手渡されました。プレゼントを手にした子供たちは、満面の笑みを浮かべ、また、ご家族の方々にとっても楽しい時間を過ごすことができたようです。



サンタとともに笑顔で記念撮影

平成29年度医療安全推進週間イベント開催

医療安全管理室では、平成29年11月16日（木）～11月25日（土）までを本院の医療安全推進週間として、昨年度に引き続き各種イベントを開催しました。【写真】

第2回のテーマを「患者ファースト～わかるまで聞こう、話そう、伝えよう～」として、期間中に中央棟2階の特設ブースにおいて、誤嚥防止や安全対策グッズの紹介、安全な医療に関する各種リーフレットの配布、DVD放映、薬剤師・管理栄養士による相談、川柳48句の発表などを行いました。

イベント会場には、外来・入院患者さんに留まらず、見舞いに来られたご家族や友人など多くの方にお越し頂きました。

医療安全管理室では、患者安全の確保・推進のために



これからも色々なイベントを行っていきますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

医療安全管理室

末梢静脈挿入式中心静脈カテーテル挿入研修会

医療安全管理室では、特定機能病院の承認要件等の見直しに伴って、平成29年度から平時から医療安全に資する診療内容のモニタリングとして、中心静脈カテーテル（CVC）挿入時の合併症に関する調査を行っています。そもそも、重篤な合併症を起こさないようにするために、現在では不要なCVC穿刺を回避することが望めます。そのため、末梢静脈挿入式中心静脈カテーテル（PICC）の使用を推奨し、平成29年9月1日からPICC穿刺マニュアルの策定、医療安全職員研修（医療安全アカデミー）での啓発活動を行っています。

平成29年12月20日（水）には、医療安全管理室主催による末梢静脈挿入式中心静脈カテーテル挿入研修会が開催され、座学での講演とハンズオンによる実技研修を行い、多くの関係職員が参加しました。

医療安全管理室では、医療安全推進のためにこれから



手技のトレーニングをする参加者

も色々な活動を行っていきますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

平成29年度メディカルクリニック講演会開催

平成29年11月11日（土）及び12月16日（土）、平成30年1月27日（土）の3日間にわたり、メディカルクリニック1階ロビーにおいて、講演会が開催されました。

様々なテーマで開催されるこの講演会には、毎回20名前後の方の参加があり、専門の医師が病気のメカニズムやその治療方法などを分かりやすく解説するとともに、個別相談も行われ、盛況です。

メディカルクリニックでは、今後も地域の方々に向けての講演会を開催し、本クリニックの知名度・認知度向上を図っていきます。

これまでの講演内容は、次のとおりです。



咳について解説する馬場クリニック長

日時	講演テーマ	講師
平成29年11月11日（土）	長引く咳をもたらす病気とその治療について	メディカルクリニック 馬場研二クリニック長
平成29年12月16日（土）	あなたの見えづらさ、こんな病気かも？！	眼科 伊藤麻耶里助教
平成30年1月27日（土）	カテーテルで心臓の病気を治すには？	循環器内科 早稲田勝久教授（特任）

休憩時間にも「改革」を ～一人で?みんなで?～

保健管理センター長 鈴木 孝太

平成29年4月に設置された保健管理センター長、そして産業医をしております医学部衛生学講座の鈴木孝太です。最初に、保健管理センターと産業医の役割について、簡単に説明しておきます。保健管理センターは、D棟の6階にあり、学生、そして教職員の皆さんの健康管理を主たる目的としています。また、産業医としては、どのようにして働くか（作業管理）、働く環境は適切か（作業環境管理）ということをチェックするとともに、皆さんの健康管理を行って、健康で安全に働くことができる職場づくりを目指しています。

さて、世の中では「働き方改革」という声があちこちで聞こえています。皆さんの働き方はどうですか？産業医として、長時間労働による健康への悪影響を防ぐために、該当する方との面談をしていますが、その際に皆さんにお伝えしているのは、「長く働いて、結果として睡眠不足になり効率が悪くなるくらいなら、早めに帰って十分な睡眠を確保し、翌日の仕事の効率を上げましょう。」ということです。簡単に言えば、「しっかり休みましょう！」ということになります。このように、休養は心身の健康を維持するために重要なものであり、労働基準法でも、「労働時間が6時間を超える場合は少なくとも45分、8時間を超える場合は同じく1時間の休憩を労働時間の途中で与えなければならない」と規定されています。

睡眠時間と同様に、休憩時間もしっかりと取らないと、集中力の低下から、かえって仕事の効率を悪くすることも考えられます。そうは言っても、人それぞれ、仕事のやり方、休憩の取り方にも違いがありますし、それぞれが快適な方法で過ごすことができればいいと思いますが、休憩時間、特に昼休みの過ごし方について一つ提案です。

最近、自分の机でPCに向かいながら昼食を摂る人が多いようですが、昼休み、少し机から離れてみませんか？一人のほうがリラックスできる人、他の人と話すことで気分転換になる人、いろいろあるとは思いますが、どちらにしても、自分の仕事から一定時間離れることは、その後の仕事を考えても大切です。例えば、職場から散歩がてら立石プラザまで行って、1階でお弁当を買ってもいいでしょうし、2階で何かを食べてもいいでしょうし、皆さんで3階の交流ラウンジに行っても、良い気分転換になるかもしれません。

一方で、睡眠不足などで日中に眠気を感じた場合は、昼休みを利用し、机で静かに15分程度の仮眠を取ってみるのもいいかもしれません。その時に、周りに人がいる

とゆっくり休むこともできないでしょうし、そういう観点からも、職場の皆さんで机から離れてみませんか？

「働き方改革」と言われても、それで仕事量が減るわけではありませんし、大変なことばかりだと思います。ただ、職場の皆さんが少し意識することで、休憩時間を活用して休養を取ることができるかもしれません。もし、本当に体調が悪い時や横になって少し休みたい時は、保健管理センターに仮眠用のベッドもありますから、ぜひ利用して頂ければと思います。また、随時健康相談なども受け付けておりますので、気軽にお越しください。



災害医療研究センター

Japan Advanced Trauma Evaluation and Care (JATEC™)開催

平成29年11月4日(土)・5日(日)の2日間にわたり、災害医療研究センター主催の日本外傷学会及び日本救急医学会が推進する外傷初期診療を学ぶJapan Advanced Trauma Evaluation and Care (JATEC™) コースが開催されました。【写真】

今回、本学職員を含む31人の医師が座学・実技・シナリオ演習を経て、筆記試験と客観的臨床能力評価試験に合格して修了証を手に入れています。

JATEC™コースは、外傷患者を診療する全ての医師を対象とした標準化教育プログラムであり、単なるセミナーや講義では修得しにくい知識や技術を獲得することが可能です。

修了者は、外傷診療能力が向上することで、「防ぎ得た外傷死(適切な処置を施せば救命できたと推測される死亡)」を低減させることが判明しており、災害時の外傷患者の診療にも有効とされています。



災害医療研究センターでは、今後もこのような講習会の開催を予定しておりますので、皆さまの受講をお待ちしております。

野口宏名誉教授

消防防災科学技術研究推進制度における新規研究課題に採択

「消防防災科学技術研究推進制度」は、消防防災行政における課題解決や重要施策推進のための研究開発を委託する競争的資金制度です。

このたび、本学の野口宏名誉教授が研究代表者を務める研究課題「ファーストエイドの標準教育プログラムと、大規模イベントでの応急救護体制確保の指針の研究開発」が同制度に採択され、平成28年度・29年度の2年計画で研究を実施しています。

本研究は、平成28年度採択された研究9件の中でも、消防庁の重要施策を推進するための研究(重要施策プログラム)として位置づけられています。

当該研究の1年目は、他の研究機関及び連携する各地方消防本部の協力の下、「ファーストエイドの標準教育プログラム開発班」と「応急救護体制の構築指針の策定班」に分かれ、現状国内で実施されている応急救護講習や米国、欧州、アジア等での救護体制の調査、名古屋ウィメンズマラソンを始めとする大規模イベントの現地視察や調査を実施しました。

2年目となる平成29年度は、前年度までの調査結果を踏まえ、東京オリンピック・パラリンピック等の国際的な大規模イベントに対応できる教育プログラムの開発と応急救護体制の構築指針の作成に向けて研究を進められています。

また、平成29年12月6日(水)午後1時から医心館において、本研究の一環として、ファーストエイド指導者講習会が開催され、県内の消防職員約60名の参加がありました。講習会では、ファーストエイドの標準教育プログラム開発班のメンバーが中心となり、出血や怪我、やけどや熱中症などの応急処置についての実習が行われました。

講習会後には、活発な意見交換がされ、教育プログラムの開発に向けて、有益な会となりました。

研究代表者を務める野口宏名誉教授から「今回本学にお



ファーストエイド指導者講習会



あいさつする野口宏名誉教授

いては、消防防災科学技術研究推進制度における研究課題に初めて採択されることとなりました。救命救急科の武山直志教授、津田雅庸教授(特任)、加納秀記教授(特任)に加わってもらうとともに、他施設の医学系の研究者、主たる消防本部から救急隊員にも研究協力者として参加を得て、総勢20名体制で研究を進めております。」との言葉を頂きました。

産婦人科学講座・若槻明彦教授 一般社団法人日本女性医学学会理事長に就任

平成29年11月4日（土）・5日（日）リーガロイヤルホテル大阪で開催された第32回日本女性医学学会において、本学医学部卒業生で産婦人科学講座の若槻明彦教授が、一般社団法人日本女性医学学会の理事長に就任されました。（任期：6年間）

これまでの産婦人科学は、母体・胎児・新生児や妊娠・分娩に関連した「周産期・新生児医学」、婦人科がんなどの腫瘍を扱う「婦人科腫瘍学」、不妊症やホルモンに関連した領域を中心とした「生殖内分泌学」の三つの領域がsubspecialtyとなっていました。近年四つ目の領域として、思春期から老年期に至る全ての女性の健康管理に関連した「女性医学」が正式に認められました。今後は高齢化社会に向けて、女性医学の重要性は更に増すことが予想され、注目を集めています。

同学会の理事長に就任された若槻教授から「日本女性医学学会の3代目の理事長を拝命いたしました。これまでの功績を引き継ぐとともに、更なる学会の発展のため



同学会の理事長に就任された若槻教授

に最大限努力して参ります。また、学会活動を通して、愛知医科大学の特長を広く知って頂くために微力ながら尽力させて頂く所存でございます。」とのメッセージを頂きました。

竹内基恭病理学講座助手、二宮尚美看護補助員 医学教育等関係業務功労者表彰受賞

病理学講座の竹内基恭助手と看護部の二宮尚美看護補助員が、平成29年11月28日（火）に文部科学大臣から、医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し、顕著な功労のあった方々に授与される、医学教育等関係業務功労者表彰を受賞しました。

表彰を受けた竹内助手から「この度は、このような栄誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。これも、病理学講座各先生のご指導の賜物と厚く御礼申し上げます。また、この業務に携わっている方々の励みになれば、幸いに存じます。これからも、愛知医科大学の更なる発展をお祈り申し上げます。」、二宮看護補助員から「この栄誉はひとえに皆さま方のご指導ご支援のおかげと心より感謝しております。愛知医科大学病院の更なる発展と、皆さま方の健康をお祈りします。」とそれぞれ喜びの言葉を頂きました。



竹内さん



二宮さん

外科学講座（消化器外科） 駒屋憲一講師 2017年度日本胆道学会国際交流奨励賞受賞

外科学講座（消化器外科）の駒屋憲一講師【写真】が、平成29年9月28日（木）・29日（金）ホテルメトロポリタン山形・山形テルサで開催された第53回日本胆道学会学術集会において、国際交流奨励賞を受賞しました。

同賞は、国際学会で発表された胆道に関する演題において、胆道病学の発展に寄与する優秀な演題に対して授与されるもので、平成29年6月にパシフィコ横浜で開催された第6回アジア太平洋肝胆膵学会・第29回日本肝胆膵外科学会学術集会において、駒屋講師が発表した「Recurrence after resection with curative intent for distal cholangiocarcinoma」が学術的に高く評価されたものです。

表彰を受けた駒屋講師から「受賞のきっかけは、遠位胆管癌に対して臍頭十二指腸切除術後を施行した患者の



再発形態について、最多の症例数を検討した発表です。国際学会といっても、語学力を競争する場ではなく、あくまで内容での勝負です。若手の指導とともに自身も努力を重ねていく所存です。」との感想がありました。

泌尿器科学講座 全並賢二助教 米国ジョンズ・ホプキンス大学（Johns Hopkins University）にて開催された 12th Annual Johns Hopkins Prostate Research Day, 2017で “The Donald S. Coffey, Ph.D. First Place Poster Award for Basic Research”を受賞

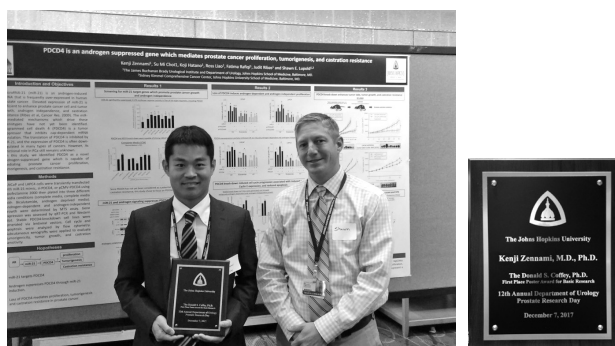
平成29年12月7日（木）米国ジョンズ・ホプキンス大学（JHU）で開催された12th Annual Johns Hopkins Prostate Research Day, 2017において、本学から同大学に留学中の全並賢二助教（泌尿器科学講座）が基礎研究部門の最優秀ポスター賞である“The Donald S. Coffey, Ph.D. First Place Poster Award for Basic Research”を受賞しました。

Johns Hopkins Prostate Research Dayは、年に一度Hopkinsで前立腺に関する研究者が一堂に会して行われる会で、2017年も全米の研究施設からのInvited speakerらの講演やJHUのFaculty membersからの10を超えるメインセッションが企画されるとともに、JHUのResident, Postdoc, Graduate studentから100以上のポスターが発表されました。それぞれのポスターは、JHUのFaculty members, JHU Prostate SPORE grantの外部評価者から研究内容と発表内容について評価され、臨床研究部門、トランスレーショナルリサーチ部門、基礎研究部門の三つの部門から一つずつ最優秀発表賞が選出されます。

全並助教は、“PDCD4 is an androgen suppressed gene which mediates prostate cancer proliferation, tumorigenesis, and castration resistance.”「アンドロゲンによって抑制されるPDCD4は、前立腺癌増殖、腫瘍形成、去勢抵抗性をもたらす」というテーマで、JHUの偉人の一人であるDr. Donald S. Coffeyの名前を冠した基礎研究部門の最優秀ポスター賞に選出されました。

表彰を受けた全並助教から「このような名誉ある賞を頂けて大変嬉しく思います。まさか自分が受賞できるとは、夢にも思っていなかったのが本当に驚きましたが、多くの聴衆の拍手の中で楯を受け取った時には、本当に感動しました。関係者の皆さまに深く感謝すると同時に、今回の受賞に満足することなく今後も精進することが私の使命だと考えております。」との感想がありました。

また、泌尿器科学講座の住友誠教授から「JHUには、



全並助教（左）と指導者のShawn Lupold Ph.D.（右）

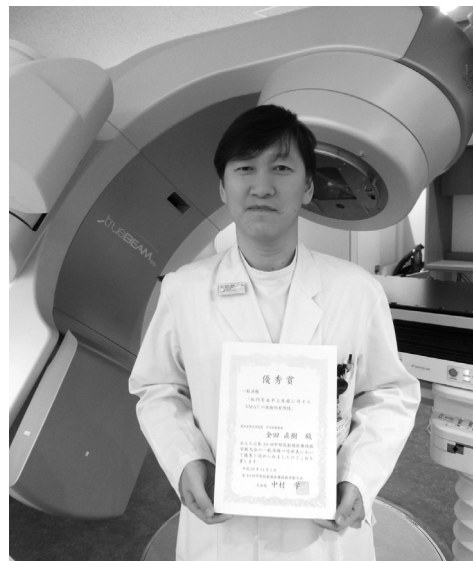
日本からも大阪大学、九州大学を始め、多くの若手研究者が留学して研究に従事しており、その水準たるや世界的にもトップレベルであることは言うまでもありませんが、その中で全並助教の研究が最高の評価を受けたことはまさに快挙と言えます。今回の受賞は、全並助教の努力の賜とは思いますが、Principal investigatorのDr. Shawn Lupoldの熱心な指導を頂けたことが大きかったのではないかと思います。そして何よりも、2015年6月から2017年12月までの約2年半という前例のない長期間にわたり、全並助教が海外留学することに対し、将来の愛知医科大学のためと快くご理解くださいました三宅理事長、佐藤学長、岡田医学部長を始め、その手続きを含めて多大なるサポートを頂いた事務担当者の皆さまを含め、関係者の方々のご理解とご支援が頂けたからこそこの受賞であると確信しております。旧帝大の優秀な同僚たちを抑えて全並助教の研究が評価されたことで、『成せば成る』ことを愛知医科大学関係者にご報告できることを本当に嬉しく思うと同時に、現在も懸命に研究に勤んでいる若手研究者に更なる刺激と勇気を与えることができるのではないかと期待しております。」とのコメントがありました。

中央放射線部 金田直樹主任 第10回中部放射線医療技術学術大会 優秀賞受賞

中央放射線部の金田直樹主任が、平成29年11月5日（日）じゅうろくプラザで開催された第10回中部放射線医療技術学術大会において、優秀賞を受賞しました。

同賞は、同会で発表された一般演題口述発表の中から、金田主任が発表した「肛門管扁平上皮癌に対するVMATの技術的有用性」が学術的に高く評価されたものです。

表彰を受けた金田主任から「放射線治療において、肛門管扁平上皮癌のような複雑な照射野形成が必要な照射部位でも、本院の高精度放射線治療装置（TrueBeam STx）を用いることにより、正常臓器線量の最適化を達成することができ、有害事象の軽減に貢献することを技術的な側面から確認しました。荣誉ある賞を頂き、大変光栄に思います。今後も臨床に有用な技術の研究を積み重ねて参ります。」との感想がありました。



TrueBeam STxの前で記念撮影

医療福祉相談部 村居巖技師長 平成29年度愛知県精神保健福祉事業功労者知事表彰受賞

平成29年11月27日（月）愛知県本庁舎において、平成29年度愛知県精神保健福祉事業功労者知事表彰式が開催され、医療福祉相談部の村居巖技師長が、愛知県精神保健福祉事業功労者知事表彰を受賞しました。

愛知県では、多年にわたり、精神保健福祉事業の発展に寄与し、その功績が顕著である個人又は団体を対象として表彰するもので、平成29年度は6個人・2団体が表彰を受けました。

村居技師長は精神保健福祉士として、精神障害を抱えた方々の社会復帰や社会参加を支援し、日常生活に支障をきたす問題解決に尽力され、このような長年にわたる功績が高く評価され、今回の受賞となりました。

表彰を受けた村居技師長から「精神障害を抱える当事者の方々やご家族、また、兼本浩祐教授を始め、精神神経科の先生方や精神保健福祉士協会の先輩諸氏から多くのご指導を頂き、大変名誉な表彰を頂きました。今後も、精神障害の方々のために精進して参りたいと思います。」との感想がありました。



表彰式での記念撮影
村居技師長（左）大村秀章知事（右）

総合学術情報センター 学術分野における「伝わる」ポスターの作り方セミナー

平成29年11月16日（木）午後5時30分から大学本館マルチメディア教室において、金城学院大学准教授の遠藤潤一氏を講師に迎え、総合学術情報センター主催による「学術分野における「伝わる」ポスターの作り方（初級編）セミナー」が開催され、教職員を中心に17名の参加がありました。【写真】

セミナーでは、研究発表ポスターの作成は、レイアウトとビジュアルが重要で、レイアウトは「余白」、「段組」、「整列」、「グループ」があり、それぞれを意識し作成することによって分かりやすく伝えることができること、ビジュアルは「コントラスト」、「統一」、「配色」、「テキスト」を注意する必要があるとの説明がありました。演習では、事前に用意された歪な研究発表ポスターの修正をパワーポイントのテクニックの説明を受けながら行



い、ポスターの作成方法について学びました。

総合学術情報センターには、講師からの推薦図書をストックしており、今後も、定期的にセミナーを開催する予定です。

めりーらいん健康支援事業10周年記念 Kids ナース体験 in 愛知医科大学病院 開催

平成29年12月16日（土）本院健康情報室において、めりーらいん健康支援事業10周年記念「Kids ナース体験 in 愛知医科大学病院」（一般財団法人愛知医科大学愛恵会協賛）が開催されました。【写真】

このイベントは、総合学術情報センター（図書館部門）が中心となり開催するもので、めりーらいん健康支援事業では、尾張旭市立図書館、瀬戸市立図書館、長久手市中央図書館、日進市立図書館と協力しながら、医療・健康に関する図書の収集、調べ方ガイド（メディカルパス）の提供及びイベントを開催しています。今回のイベントには、近隣に住む小学生27名が参加しました。

参加した子どもたちは、学校司書によるブックトークで「からだ」の知識を深めた後、本院看護師の指導の下、聴診器の使い方、脈拍測定、血圧測定、包帯法、車椅子の体験をしたり、白衣を着ての写真撮影を行いました。参加した子どもたちからは「将来は愛知医科大学病院で働いてみたい。」などの感想が寄せられました。

本イベントの詳細は、めりーらいん健康支援事業10周年特設サイトでもご覧頂けます。

<http://www.aichi-med-u.ac.jp/meliline/tokusetu/meliline10.html>



ME-LI.LINE
めりーらいん

イメージキャラクターの「メリーちゃん」

事務職員資格取得

学是「具眼考究」を踏まえたSD（スタッフ・ディベロップメント）実施に関する基本方針の下、事務部門では「具眼」に該当する具体的な取り組みとして、業務遂行に必要な知識習得に積極的に取り組んでいます。

平成29年には、計12名の事務職員が各担当業務に直結する資格・検定を受験し合格しました。習得した知識・技能を業務へ活かし、更なる自己研鑽によるステップアップが期待されます。



資格を取得した職員

知的財産管理技能検定3級	研究支援課 加藤広悟主事
ビジネス文書技能検定試験2級	人事・厚生室 藤田智久主査
ビジネス文書技能検定試験3級	総務・秘書室 宮島朋之主事
秘書技能検定試験準1級	病院管理課 中島里美主任
秘書技能検定試験2級	総務・秘書室 細江祥世主事
	人事・厚生室 波頭あかね主事
	病院経営企画課 山岸可奈子主事
マイナンバー実務検定試験2級	人事・厚生室 幾島由香里主事
メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅱ種	人事・厚生室 藤田智久主査
	研究支援課 勝野いつか主任
情報セキュリティマネジメント試験	人事・厚生室 藤田智久主査
	研究支援課 佐合範彦主事
ITパスポート試験	人事・厚生室 森美公主主事
	研究支援課 佐合範彦主事
	医療情報システム課 加藤大貴主事

医学部事務部学生課 間瀬彩奈主事

愛知万博メモリアル第12回愛知県市町村対抗駅伝競走大会 愛知駅伝に長久手市代表選手として出場

平成29年12月2日（土）愛・地球博記念公園で開催された愛知駅伝（愛知万博メモリアル第12回愛知県市町村対抗駅伝競走大会）において、医学部事務部学生課の間瀬彩奈主事が長久手市の代表選手として、第7区（一般・女子3.2km）に出場しました。長久手市は、市の部で全体の20位になり、前年度の33位から大きく順位を上げました。

間瀬主事は、今年度採用された新入職員で、大学在学中は、東海学生陸上競技秋季選手権大会・1500m走で4位に入賞するなど中長距離選手として活躍していました。本学入職後も、各地で開催されるマラソン大会に出場し、平成30年1月に行われた第20回木曾三川マラソン大会では、フルマラソン女子の部に初出場で優勝しています。

長久手市の代表選手として、力強く走った間瀬主事から「社会人となり、不慣れな生活の中走ることはきつく思う部分も多々ありますが、温かい声を掛けて頂ける環境にいられますことを大変嬉しく思い、感謝しております。様々な方と出会う中で刺激を受け、時間の使い方や練習方法の工夫次第では、もう少しいけそうな感触を抱けた大会となりました。何事においても、今ある環境下で成長する方法を模索し続けながら日々精進していきたいと思っております。」と感想がありました。

愛知駅伝は、毎年東海テレビでも生中継され、県内各市町村の代表者選手たちの勇姿を見ることができます。



力強く走る間瀬さん



駆けつけた職員応援団と記念撮影

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取組みなどについて紹介いたします。

看護学部 感染看護学領域

感染看護学の教員は2名です。

学部教育では、全学年の教育に携わっています。「感染と看護」の科目では、1～2学年次生の学習内容を基盤に、具体的な感染管理や感染予防ケアについて学生の学びを広げ、かつ深めています。「看護研究方法」では、研究方法のプロセスの理解とリサーチマインドを育てています。その他、「ヘルスアセスメント」、「看護援助論」、「看護入門実習」、「看護援助実習」、「総合看護実習」、「看護ゼミナールⅠ・Ⅱ」を担当しています。教員2名は、本院の感染対策委員会及び感染対策チームのメンバーでもあり、臨地実習全般において、病院との連携を図りながら、感染症の面で学生が安全に実習を展開できるようサポートしています。

大学院教育では、感染症看護専門看護師を育成しています。国内外の感染症の状況や地域包括ケアシステムの推進を鑑みると、感染症看護専門看護師に期待される役割は、今後更に高まることが予想されます。大学院生は、



長崎由紀子准教授（左）と佐藤ゆか教授

臨床経験が豊かな学生が多いため、経験の意味づけや学びほぐしを行い、新たな知の構築やスキルの修得を図れるよう教育を展開しています。

地域での感染症に関わる課題を科学的に解決し、看護の質向上に貢献しうる人材の育成に努めています。

学 術 振 興

平成30年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数 (件)	申請金額 (千円)
新学術領域研究 (研究領域提案型) (継続の研究領域・終了研究領域)	4	17,000
基盤研究 (B) 一般	9	72,031
基盤研究 (C) 一般	107	205,449
基盤研究 (C) 特設分野研究	2	5,030
挑戦的研究 (萌芽)	16	28,306
若手研究	89	161,663
合 計	227	489,479

学 位 授 与

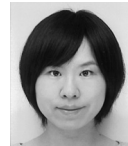


永井 麻矢子

学位授与番号 甲第502号

学位授与年月日 平成30年1月11日

論文題目:「Adoptive immunotherapy combined with FP treatment for head and neck cancer: An in vitro study (頭頸部がんにおけるFP療法併用養子免疫治療について: *in vitro*研究)」



竹内 亜里紗

学位授与番号 乙第386号

学位授与年月日 平成29年11月9日

論文題目:「Breast Irradiation with Respiratory Gating Reduces Lung Dose: Assessment with a Phantom Simulating Respiratory Motion (呼吸同期下乳房照射の肺線量の減少: 呼吸運動を模したファントムを用いた評価)」

研究助成等採択者

○公益信託永尾武難病研究基金

第19回研究助成

●氏 名 太田明伸 (生化学講座・講師)

研究題目 CRISPR-Cas9システムを用いた多発性
骨髄腫における遺伝子異常と病態増悪機
構の解明

助成金額 700,000円

○一般財団法人ヘルス・サイエンス・センター

平成29年度研究助成金

●氏 名 西山毅 (公衆衛生学講座・准教授 (特任))

研究題目 精神疾患による病气出勤 (presenteeism)
を生じる要因の網羅的研究

助成金額 1,000,000円

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

・日本循環器学会第150回東海・第135回北陸合同地方会
・第37回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会

【開催日】

平成29年11月3日(金・祝)・4日(土)
平成29年11月3日(金・祝)・4日(土)

【会長等】

天野 哲也
山口 悦郎

日本循環器学会第150回東海・第135回北陸合同地方会

平成29年11月3日(金・祝)・4日(土)ウインクあいち(愛知県産業労働センター)において、日本循環器学会第150回東海・第135回北陸合同地方会を開催しました。

学会では、連休中にも関わらず900名近い医師、看護師、薬剤師、放射線技師等の方々に参加して頂きました。初日には、ランチョンセミナー2題、サテライト教育講演、小児、成人先天性心疾患セミナーなどの企画を行いました。また、アメリカ心臓協会学術集会(American Heart

内科学講座(循環器内科)・教授 天野 哲也

Association Scientific Meeting)2017の国際交流助成発表会も開催し、基礎から臨床まで幅広い内容での発表がありました。2日目には、ランチョンセミナー、男女共同参画委員会セミナーを開催し、現在話題となっている女性医師の循環器内科医としての働き方に関して活発な討論がなされました。

本学会運営におきましては、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からもご助力を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第37回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会

内科学講座(呼吸器・アレルギー内科)・教授 山口 悦郎

平成29年11月3日(金・祝)・4日(土)ウインクあいち(愛知県産業労働センター)において、第37回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会を開催しました。

会場は、名古屋駅前で利便性の良さは好評でした。全体のテーマは「継往開来」で、-過去を受け継ぎ未来を切り開く-としました。特別講演1題、特別報告2企画、シンポジウム1企画、パネルディスカッション1企画、

学会賞受賞記念講演と会長講演各1題など、全63題の発表がありました。開催前は、何人の参加者が来場し、運営的に成り立つのか心配でしたが、お陰さまで例年通り150名余のご参加を頂きました。

特に、1日目のYIA受賞候補演題の発表の際には、立ち見が出るくらいの盛況でした。ご支援を頂きました一般財団法人愛知医科大学愛恵会に、この場を借りて感謝いたします。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

病院規程の一部改正

愛知医科大学病院規程の一部が改正され、新たな中央診療部として、「造血細胞移植センター」が設置されました。

また、この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成30年1月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院造血細胞移植センター規程
- ・愛知医科大学病院造血細胞移植センター運営委員会規程

医学研究科の教育・研究上の基本組織等に関する規程の一部改正

「脳血管内治療センター」の設置に伴い、愛知医科大学大学院医学研究科の教育・研究上の基本組織等に関する規程の一部が改正され、当該センターが医学研究科の教育・研究上の基本組織に加えられました。

施行日は平成29年11月1日

感染予防対策委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院感染予防対策委員会規程の一部が改正され、感染予防対策委員会の委員構成等が改められました。

施行日は平成29年12月1日

個人情報保護に関する規程の全部改正等

個人情報保護に関する法律の改正に対応し、本学の個人情報保護を保護する体制を整えるため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成29年11月1日

【新規制定】

- ・学校法人愛知医科大学個人情報保護管理委員会規程
- ・学校法人愛知医科大学個人情報開示等の手続に関する規程

【全部改正】

- ・学校法人愛知医科大学個人情報保護に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学個人情報保護方針

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学特定個人情報取扱規程
- ・学校法人愛知医科大学情報セキュリティに関する規程
- ・学校法人愛知医科大学情報システム運用基本規程

公印規程の一部改正

学校法人愛知医科大学公印規程の一部が改正され、公印を使用する際の事務手続等が改められるとともに、実態に合わせ、使用用途の整理及び公印の廃止等がされました。

また、この改正に伴い、学校法人愛知医科大学文書規程の一部が改正され、起案書の様式が改められました。

施行日はいずれも平成30年1月1日

給与規程の一部改正

平成29年人事院勧告に基づき、学校法人愛知医科大学給与規程の一部が改正され、本給表が改められました。

また、この改正に伴い、助教（専修医）の給与等について（理事長裁定）の一部が改正され、専修医の本給が改められました。

施行日はいずれも平成29年12月11日

編 集 後 記

☆ 平成30年を迎えました。昨年制定された学是「具眼考究」の下、私たちはこれからの医療の未来を見すえていかなくはいけません。職員が一丸となって、教育・研究・診療に邁進し、地域社会に貢献する大学・大学病院として、頑張っていきましょう！

☆ ドクターヘリ格納庫の工事が着々と進んでいます。格納庫の完成は、平成30年3月下旬を予定しています。本院は、愛知県唯一の高度救命救急センターに指定されており、24時間・365日安心かつ高度な医療を提供する大学病院として、救急医療の更なる発展に貢献していきます。

【総務広報課】

学報の送付を辞退される方は、総務広報課までご連絡ください。

愛知医科大学学報 第149号

発行年月日 平成30年1月31日

発 行 学校法人 愛知医科大学

発 行 人 三 宅 養 三

編 集 人 羽根田 雅 巳

連 絡 先 〒480-1195

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

愛知医科大学事務局総務部総務広報課

☎ (0561) 6 2 - 3 3 1 1 (代表)

☎ (0561) 6 3 - 1 0 6 3 (直通)